K-626

山形県長井市埋蔵文化財調査報告書第16集

市内遺跡発掘調査報告書(7)

歌丸館跡(うたまるたてあと)の調査

三嶋(みしま)遺跡の調査

長者屋敷遺跡(ちょうじゃやしきいせき)の調査

1999年

長井市教育委員会

市内遺跡発掘調査報告書(7)

歌丸館跡の調査

三嶋遺跡の調査

長者屋敷遺跡の調査

平成 11 年 3 月

長井市教育委員会

序

この報告書は、平成10年度に国庫補助を得て実施した市内遺跡発掘調査の結果をまとめたものです。

今年度は長者屋敷遺跡の緊急発掘調査において、本県でははじめてといわれる縄文時代中期の半截木柱遺構が発見され、集落の広場の一郭に巨木を建て崇拝の領域としていた遺構であることが明らかになりました。そのため今年は長者屋敷遺跡の確認調査に時間の大半を費やし、遺構の性格や年代の解明に重点をおいたことから、遺跡の発掘件数は全体で３件と最小限にとどまりました。

道路改良に伴う長者屋敷遺跡の緊急発掘調査に至るまでには、本市建設課とたびかさなる協議と事前調査を繰り返し、記録保存の措置をとることにしておりましたが、貴重な発見があったため遺跡は保存され道路は新たな路線が計画されることになりました。この市長部局の勇断に対しては深く感謝を申し上げる次第です。毎年実施している行政機関内部でのヒアリングでは、10数件の開発事業が関係し試掘調査の対象となっていますが、この地道な調整が今回の成果につながったものと確信しております。

最後になりましたが、この度の調査にご協力いただきました関係各位、ならびに悪天候にも係わらず調査に参加下さいました地元の方々に感謝申し上げるとともに、本書が埋蔵文化財に対する理解の一助となれば幸いに存じます。

平成１１年 ３ 月

長井市教育委員会

教育長　　竹　田　辰　雄

例　　言

1．本報告書は、長井市教育委員会が国庫補助を受けて実施した平成10年以降開発事業における調整ならびに遺跡台帳整備に関する市内遺跡発掘調査報告書である。

2．事業期間は平成10年4月1日から平成11年3月31日までである。

3．調査体制は次のとおりである。

調査員	岩崎義信（長井市教育委員会文化課主査）
〃	神尾昭利（長井市教育委員会文化課主任）
調査参加者	梅津麻衣子　工藤恵子　小島敏雄　佐藤康平
	椎名弘一　鈴木徳二郎　高世昭司　高橋政太郎
	松木竜二　若狭二男
事務局長	渋谷源一郎（長井市教育委員会文化課長）
事務局長補佐	村上和雄（長井市教育委員会文化課補佐）
事務局員	岩崎義信（長井市教育委員会文化課主査）
事務局員	神尾昭利（長井市教育委員会文化課主任）
事務局員	工藤恵子（長井市教育委員会文化課）

4．本調査にあたっては、次の方々のご指導・ご協力をいただいた。ここに記して感謝申し上げます。

文化庁、山形県教育庁文化財課、（財）山形県埋蔵文化財センター、致芳地区、西根史談会、長井市建設課、下水道課、都市整備課、長井市古代の丘資料館

5．土器実測図・拓影図の縮尺は 1／3 で、挿図・付図の縮尺はスケールで示した。また、遺物写真のスケールは5cmを示す。

6．本書の編集・執筆は岩崎義信が担当し、拓本は尾形貞夫館長の協力を、挿図・図版の作成は工藤恵子の補助を得た。

目　　次

Ⅰ 調査に至るまで …… 1

1．調査の目的 …… 1

2．調査の方法 …… 1

3．調査の経過 …… 1

Ⅱ 開発事業に係る発掘調査 …… 3

1．歌丸館跡 …… 3

2．三嶋遺跡 …… 7

Ⅲ 開発事業に係る発掘調査、遺跡確認調査 …… 21

3．長者屋敷遺跡 …… 21

報告書抄録 …… 37

挿　図　目　次

第1図　歌丸館跡位置図 …… 3

第2図　歌丸館跡調査概要図 …… 4

第3図　歌丸館跡遺構配置図 …… 5

第4図　三嶋遺跡位置図 …… 7

第5図　三嶋遺跡調査概要図 …… 9

第6図　三嶋遺跡遺構平面図 …… 10

第7図　三嶋遺跡遺構セクション図 …… 11

第8図　三嶋遺跡土器実測図・拓影図 …… 14

第9図　三嶋遺跡土器拓影図 …… 15

第10図　三嶋遺跡石器実測図他 …… 16

第11図　長者屋敷遺跡位置図 …… 21

第12図　長者屋敷遺跡概要図 …… 22

第13図　長者屋敷遺跡遺構配置図 …… 23

第14図　長者屋敷遺跡20号竪穴住居跡、305号炉跡、302号埋設土器 …… 25
第15図　長者屋敷遺跡304号集石、316号土坑 …… 26
第16図　長者屋敷遺跡306、308、311～313号集石 …… 27
第17図　長者屋敷遺跡土器実測図・拓影図 …… 29
第18図　長者屋敷遺跡土器拓影図 …… 30

図　版　目　次

図版1　歌丸館跡 …… 6
図版2　三嶋遺跡 …… 8
図版3　三嶋遺跡遺構 …… 12
図版4　三嶋遺跡4号土坑 …… 17
図版5　三嶋遺跡遺構出土土器 …… 18
図版6　三嶋遺跡包含層出土土器 …… 19
図版7　三嶋遺跡出土石器他 …… 20
図版8　長者屋敷遺跡遺構検出状況 …… 31
図版9　長者屋敷遺跡集石検出状況 …… 32
図版10　長者屋敷遺跡遺構出土土器 …… 33
図版11　長者屋敷遺跡遺構出土、一括土器 …… 34
図版12　長者屋敷遺跡包含層出土土器 …… 35
図版13　長者屋敷遺跡出土石器 …… 36

Ⅰ　調査に至るまで

1．調査の目的

本市では昭和57年から行った遺跡詳細分布調査を発端にし、市内全域にわたる分布調査を実施してきたところ約200箇所の遺跡を把握した。しかし、近年時代の要求に伴い、遺跡が存在する地域にも開発がおよぶようになってきたため、開発事業と調整を図り、事前に遺跡の保護にあたることを目的とした調査である。対象となる開発事業の内容は本市が行う公共事業、宅地開発をはじめとする民間開発事業が主体となる。

また、周知の遺跡はほとんどが表面踏査で確認したものであるため、遺跡の範囲・性格・年代等を明らかにする目的から試掘調査を実施し遺跡台帳の整備につとめた。さらに長者屋敷遺跡で半截木柱遺構の発見があったため未発掘区域について遺跡確認のための発掘調査を行い記録保存にあたった。

2．調査の方法

調査は内容・目的から次の方法で実施した。

(1) 現地踏査

現在遺跡として登録されていない地域でも、開発事業予定区域が広範囲におよぶ場合は現地踏査、聞き取り調査を実施し遺跡の有無の確認にあたり、開発事業と遺跡保護の調整にあたる。

(2) 試掘調査

周知の遺跡が開発事業実施区域に含まれる場合や、遺跡周辺に開発がおよぶ場合には坪堀りやトレンチ堀りを行い、遺構・遺物の広がりを確認し、さらに遺構検出面までの深さを把握し開発事業と遺跡保護の調整を図る。

また、遺跡台帳を整備する目的から、これまで表面踏査による推定遺跡範囲について坪掘りやトレンチ堀りを行い遺構・遺物の検出にあたり遺跡の範囲・年代・性格を明らかにし、遺跡台帳整備の補筆にあたる。

(3) 確認調査

遺跡の内容を把握する目的から小規模な発掘調査を行い、遺構・遺物に検出にあたり記録保存とする。

(4) 測量調査

遺跡台帳整備の目的から遺跡の地形図測量を行い、遺跡内容の補筆にあたる。

3．調査の経過

長井市教育委員会ではこれまで行ってきた分布調査から遺跡地図を作成しており、この地図を開発を担当する関係機関に配布し、今後計画される開発事業にさきがけて埋蔵文化財に関す

るヒアリングを実施している。その結果を受けて、開発事業との調整を図るため必要に応じ上記の調査を実施した。また、宅地造成はじめ民間開発についても随時受付を行っており、調整に係る事前調査依頼の受け入れ体制をとっている。

なお、現地調査の工程は次のとおりであり、ヒアリングに係る調査の内訳は次のとおりである。

調　査　工　程　表

日程 / 内容	平成10年									平成11年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
試掘調査								■	■ ■			
確認調査							■	■				
測量調査									■			
報告書作成							■	■	■	■	■	■

埋蔵文化財ヒアリングに係る調査一覧表

事業種別	遺跡名	調査区分	種別	時期	備考
下水道整備に係る調査	1.三嶋遺跡	試掘調査	集落跡	縄文時代前期	
道路改良工事に係る調査	2.歌丸館跡	試掘調査	館跡	中世	本郷館
	3.長者屋敷遺跡	試掘調査	集落跡	縄文時代中期 〃　晩期	
確認調査	4.長者屋敷遺跡	発掘調査	集落跡	縄文時代中期 〃　晩期	

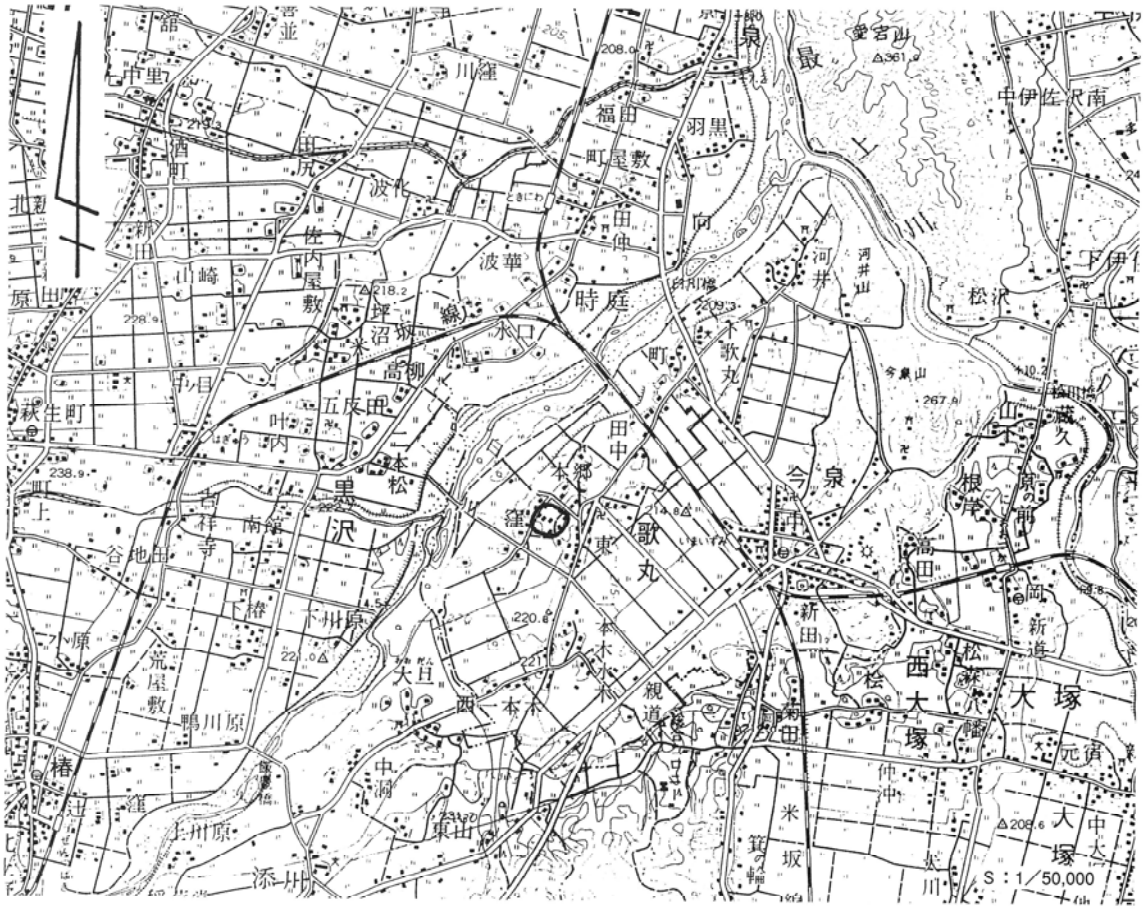
Ⅱ　開発事業に係る発掘調査

1．歌 丸 館 跡

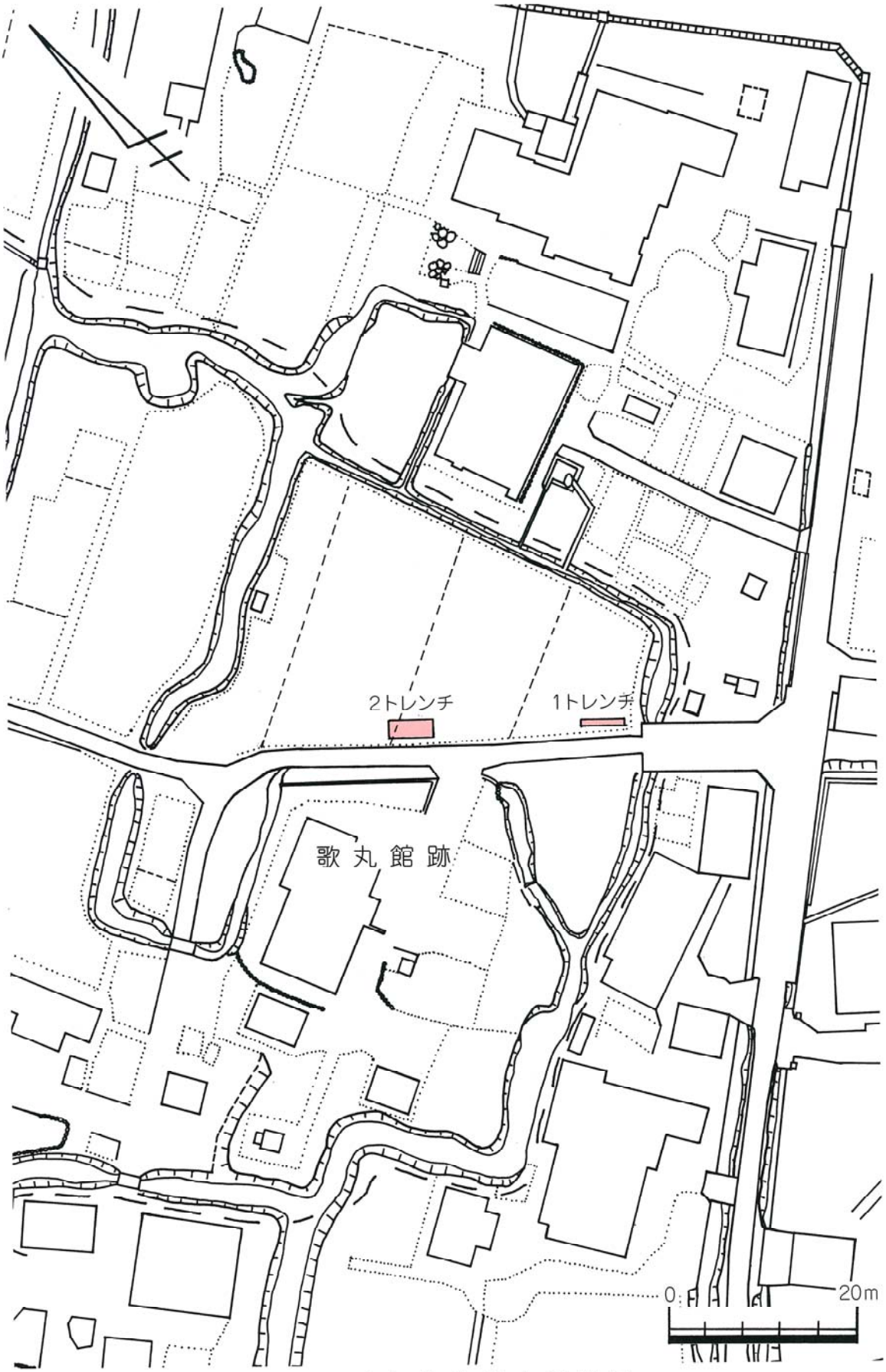
調査方法　市道改良工事に係る調査で、平成10年12月16日に試掘調査を実施した。昨年の調査において水道管埋設工事現場で堀跡と思われる遺構が土層断面で確認されたため、その付近の道路拡幅予定範囲に沿って１×５mのトレンチ（Ｔ１）と２×５mのトレンチ（Ｔ２）をそれぞれ設定し人力で地山層まで掘り下げ、遺構・遺物の検出にあたった。また、遺構の位置を把握するため平面図の作成にあたった。

調査結果　Ｔ１東半分の区域で耕作土下の茶褐色土において暗茶褐色土の土質を検出したほか、直径10～20㎝の黒褐色土の円形プラン２箇所を検出した。Ｔ２でも耕作土下の茶褐色土から直径20～30㎝の暗茶褐色土の円形プランを４箇所、黒褐色土の遺構プラン４箇所を検出し、各トレンチで陶器片が出土した。

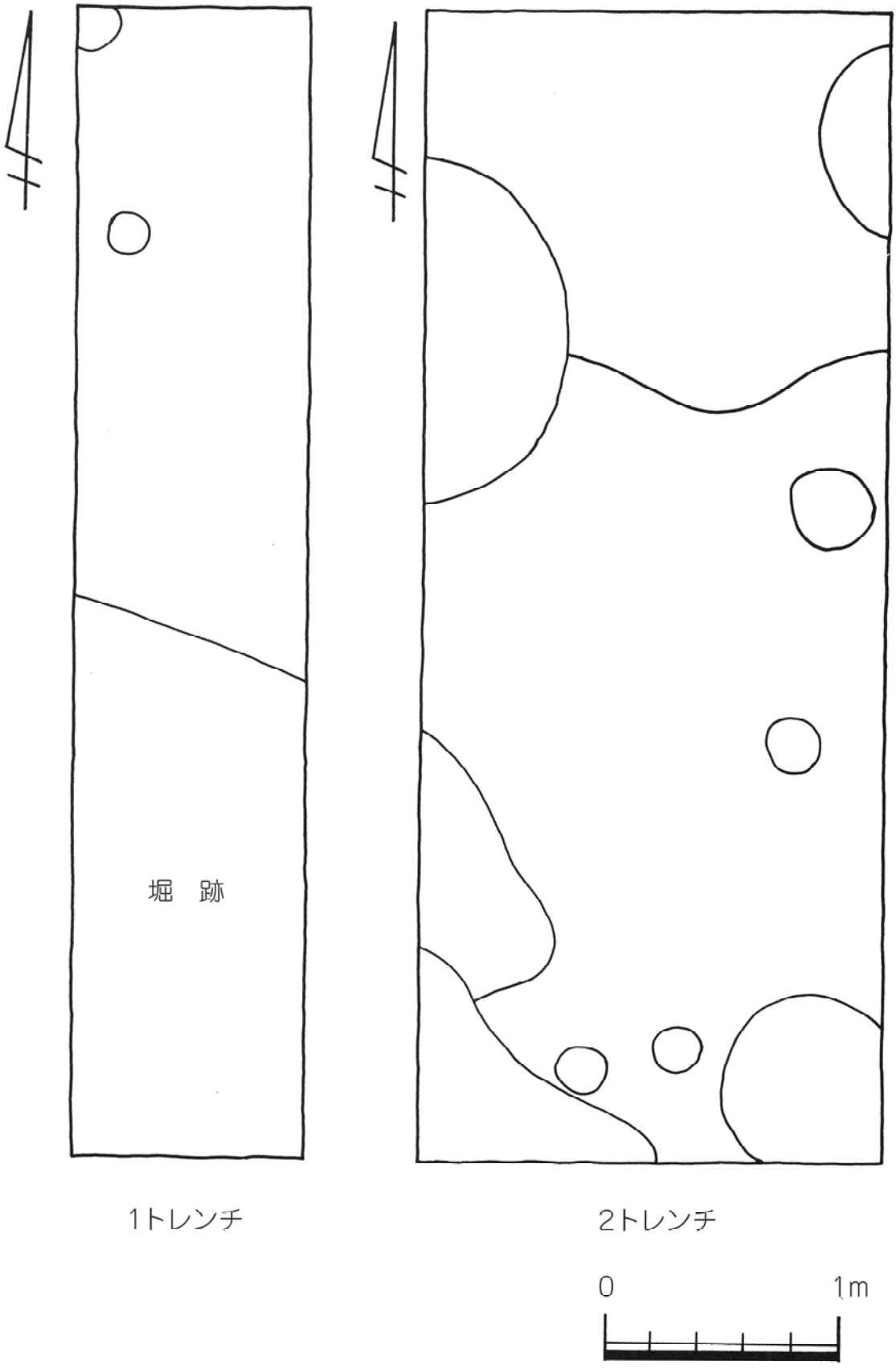
調査所見　Ｔ１で検出した暗茶褐色土と昨年の水道管埋設工事現場で確認された遺構を図面図のうえで復原すると幅５～６m深さ１.２mの堀跡が想定される。このことから現在の堀は旧堀を埋め戻した後、幅や深さも規模を縮小し再構築されたものと推測される。また、Ｔ２で検出された円形プランをはじめとする遺構はいずれも２層茶褐色土を掘り込み橙褐色土地山層に達しており、歌丸館に係わる遺構と考えられる。しかし、遺構確認面までは浅く耕作による撹乱・削平等も見られることから、このたびの道路改良工事にあたっては立ち会い調査が必要となる旨報告した。



第1図　歌丸館跡位置図



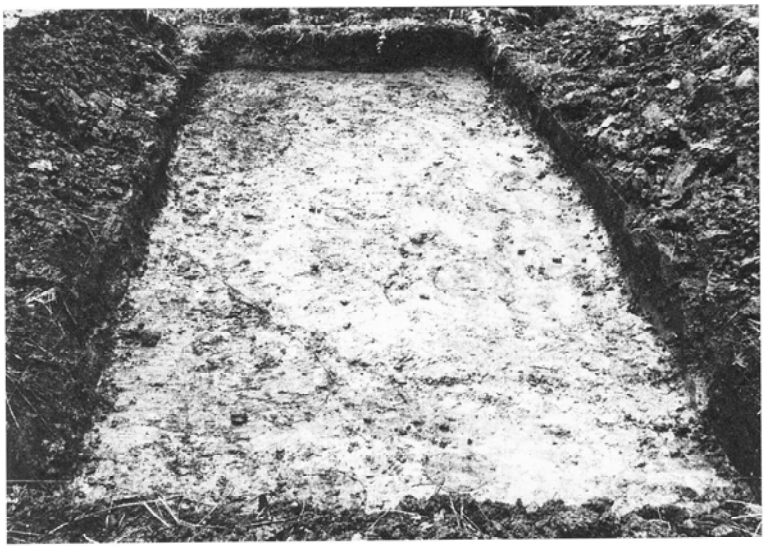
第2図　歌丸館跡調査概要図



第3図　歌丸館跡遺構配置図

調 査 区 近 景

1 トレンチ堀跡検出状況



2 トレンチ遺構検出状況

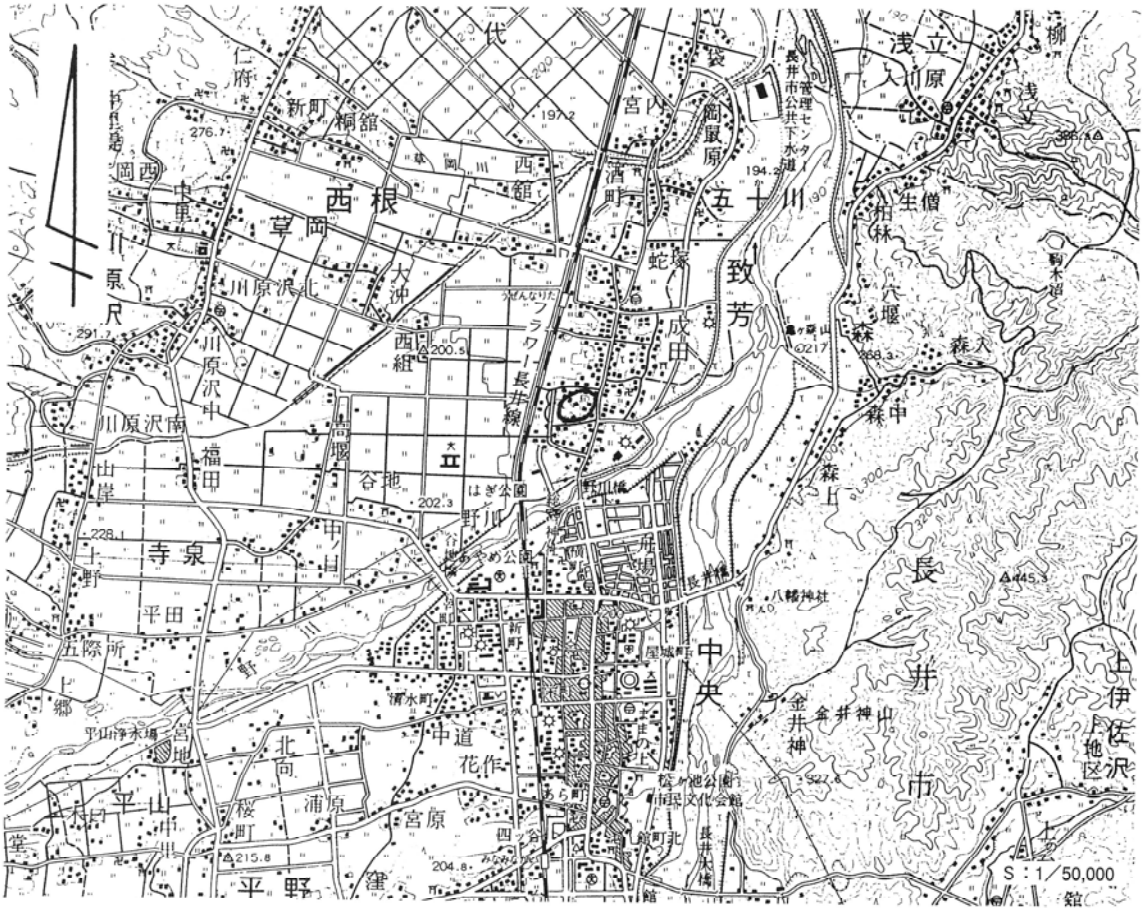
図版 1　歌 丸 館 跡

2．三嶋遺跡

調査方法　公共下水道工事に伴う小規模な発掘調査で、平成10年12月１日から４日にかけて調査を行った。昨年実施した試掘調査で一括土器の出土や遺構が検出されたことから、調査範囲を拡張し５×７ｍのトレンチを設定し地山層まで掘り下げ、遺物・遺構の検出にあたった。また、周辺の平面測量を行い地形図の作成ならびに、遺構の平面実測を行った。

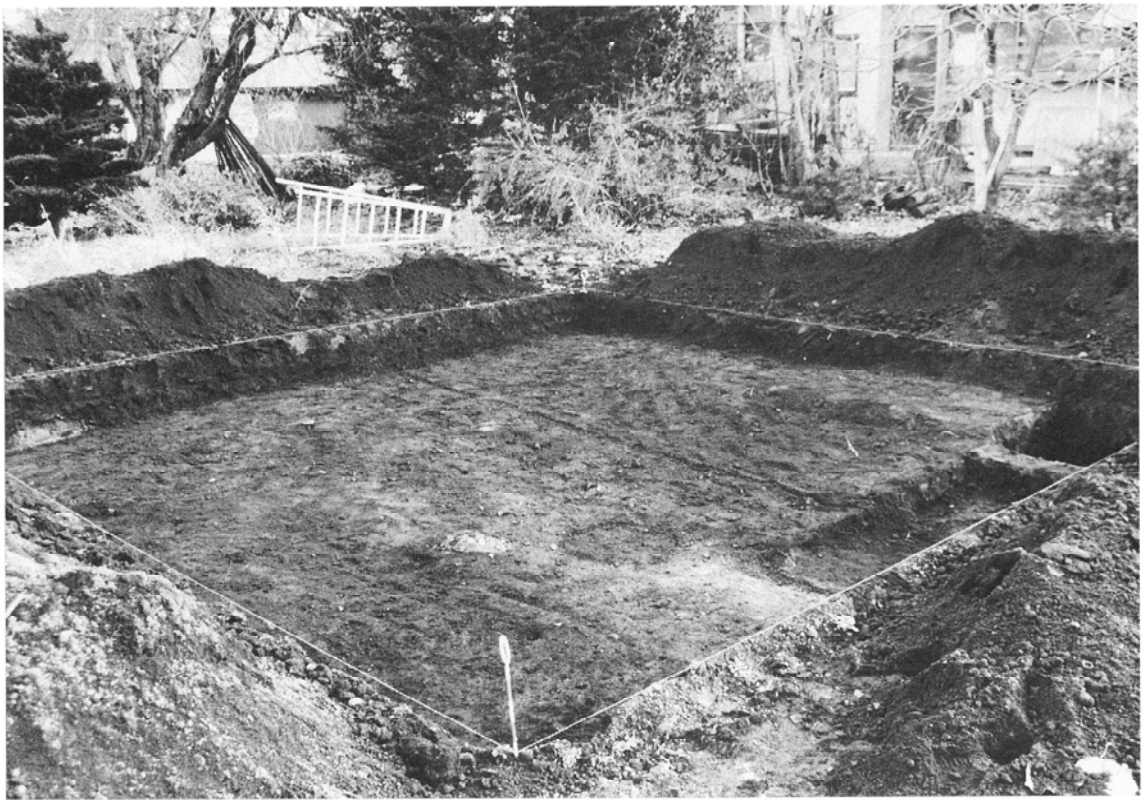
調査結果　トレンチの南側で小礫（川原石）を多く含む茶褐色土を検出した。本土質はトレンチ南半において東西に横走するかたちで確認されたため、西壁に沿って幅約１ｍにわたり地山層まで掘り下げたところ断面が「U」字形を呈する遺構となり溝跡の可能性がある。また、トレンチ北半において黒褐色土の楕円形プランを３箇所で検出したためセクションベルトを設定し地山層まで掘り下げたところ、深さ20～50㎝で地山層に達したことから土坑と考えられ、とりわけ４号土坑において小型の一括土器が２個体分出土した。包含層からは縄文土器片や剥片が出土したほか垂飾品と有孔石製品の出土もみられた。

調査所見…溝跡は深いところで150㎝に達し西壁土層断面において凹レンズ状の土の堆積が認められる。遺物は若干の陶器片のほか覆土上位で寛永通宝が出土した。当地域には中世の館跡が点在しており検出した溝跡は城館遺跡の堀跡の可能性がある。４号土坑から出土した小型の一括土器は両者とも復原可能な土器で縄文前期初頭の特徴を備えた土器であり、本土坑は当該時期の土坑墓と考えられる。限られた調査範囲ではあったが、東北地方南半における縄文時代前期初頭の遺跡としては発見例も少ないことから、本遺跡は極めて貴重な存在である。



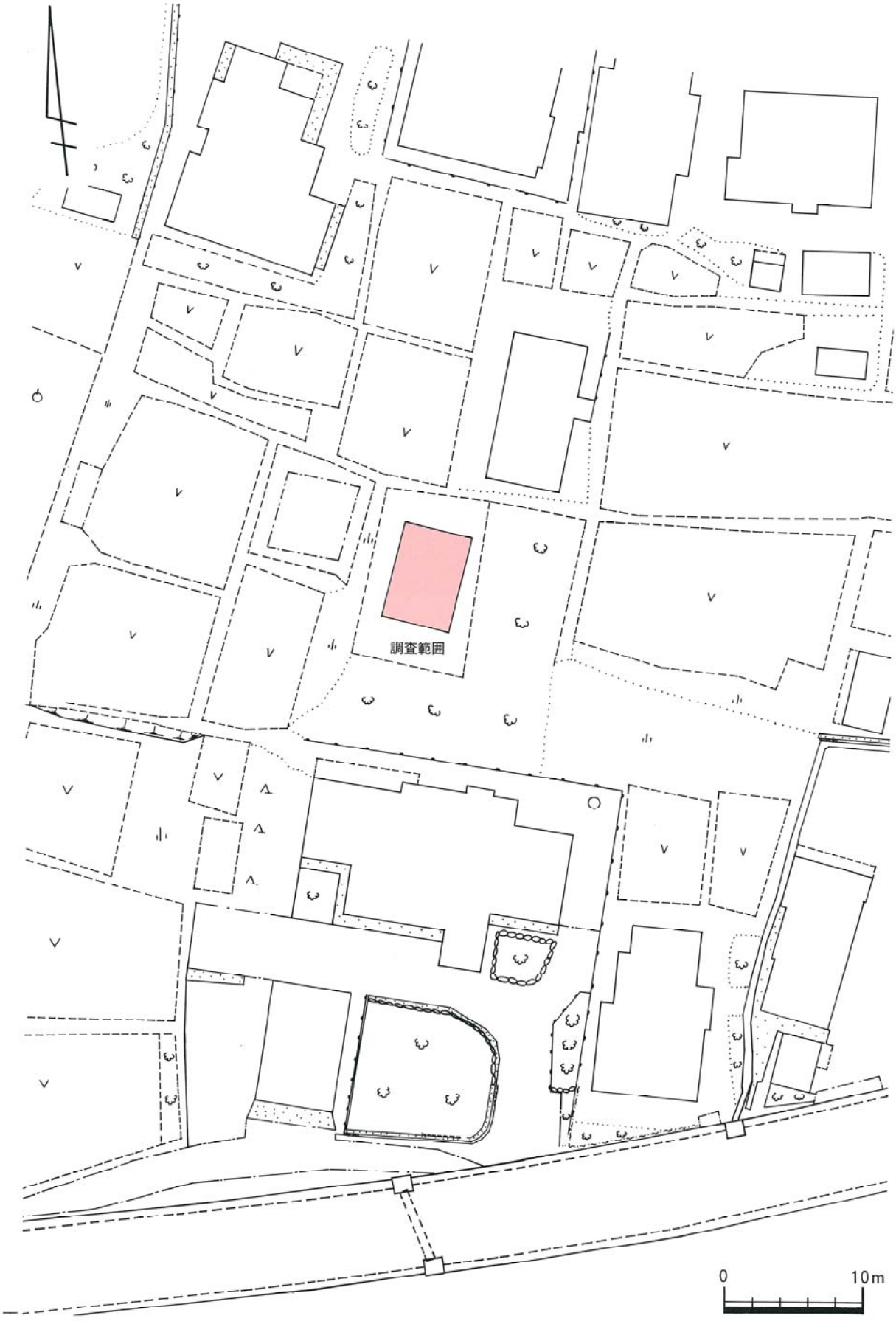
第４図　三嶋遺跡位置図

遺　跡　近　景

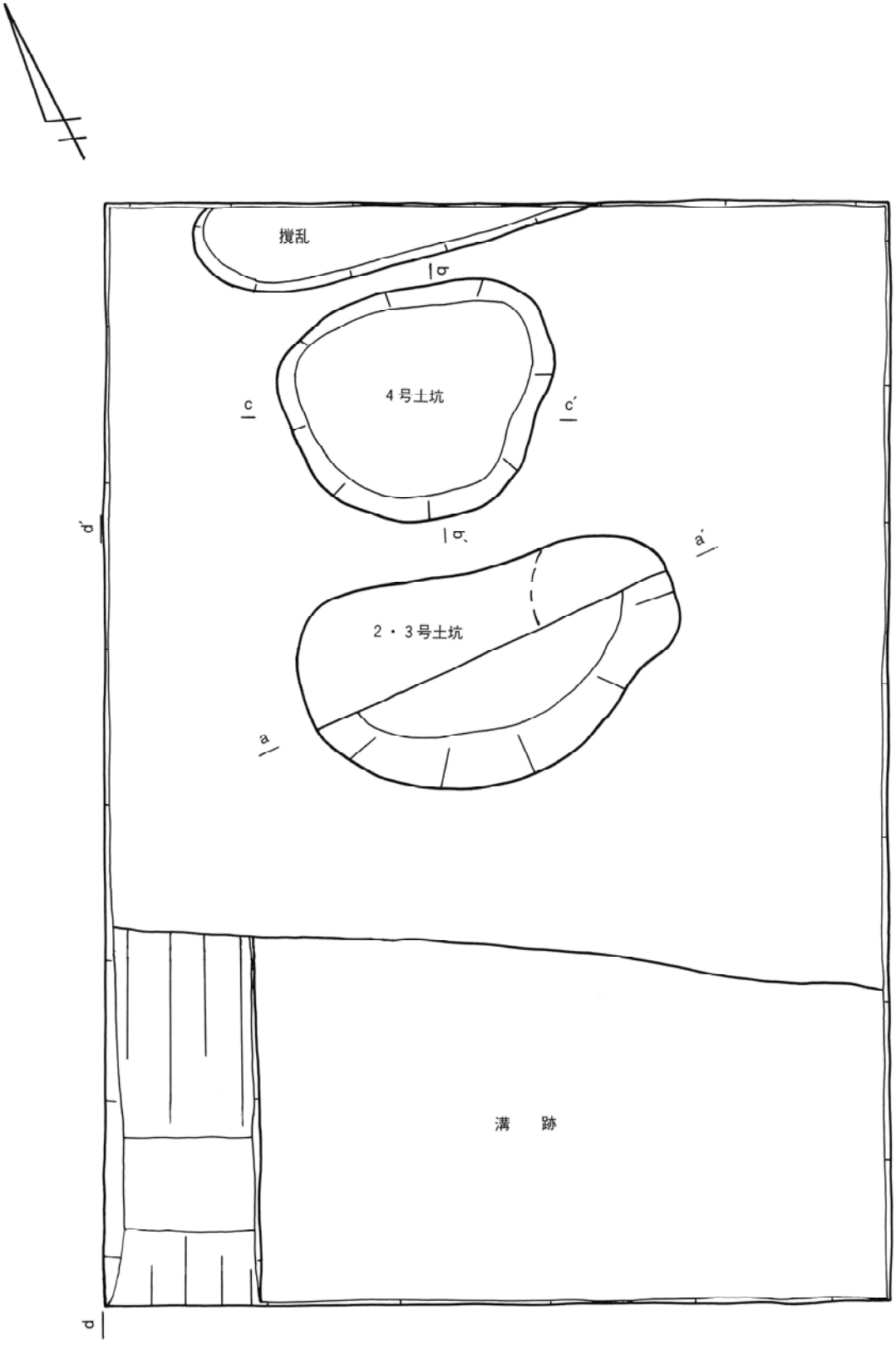


調　査　区　近　景

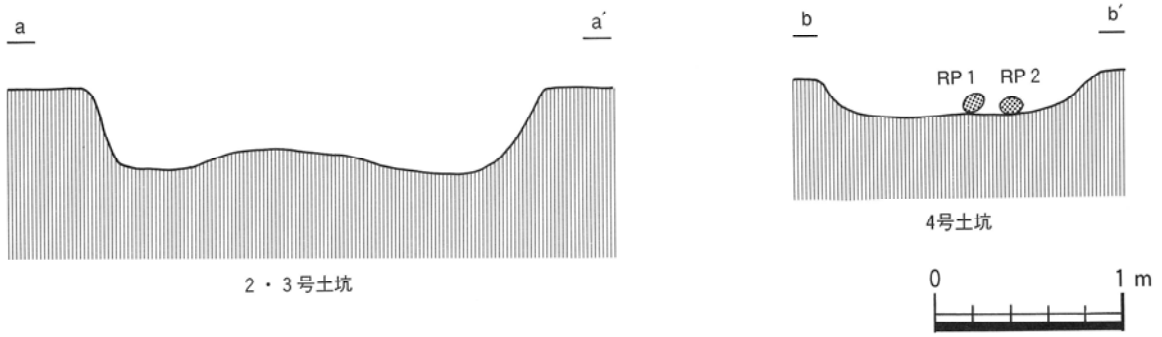
図版2　　三　嶋　遺　跡

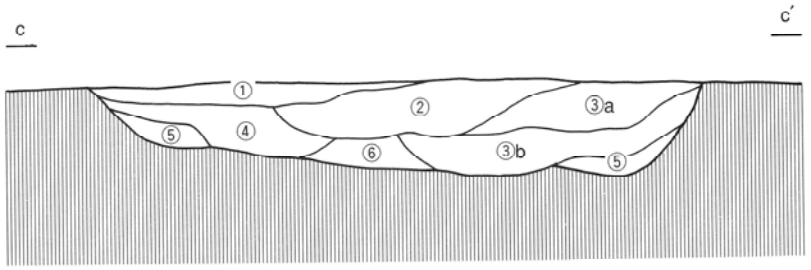


第5図　三嶋遺跡調査概要図



第6図　三嶋遺跡遺構平面図





① 暗茶褐色土　粘性を帯びた粒子の細かい土質

② 黒褐色土　指頭大の礫と褐色粒子を含みしまりありかたい土質

③a 暗灰褐色土　指頭大の礫を多く含みしまりありかたい土質

③b 暗灰褐色土　③a層と同様の土質で礫が大きくなる

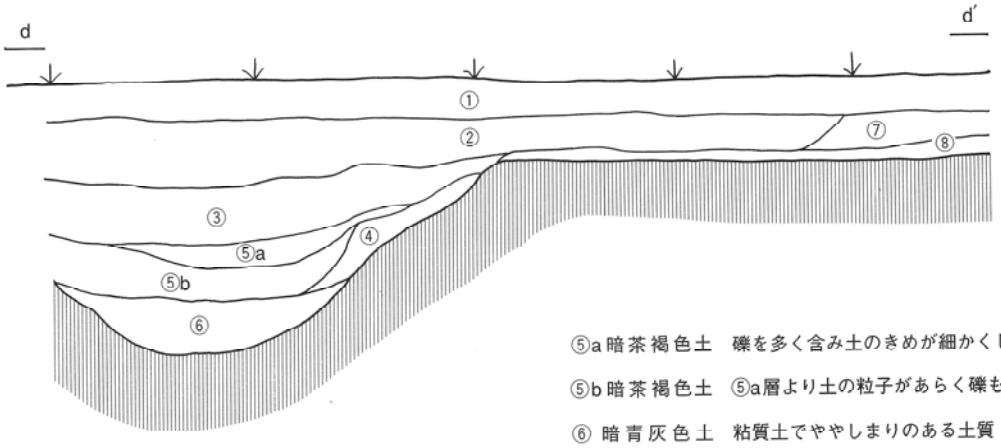
④ 灰茶褐色土　砂質土で指頭大の礫を若干含みしまりありかたい土質

⑤ 茶褐色土　砂質土でしまりありかたい土質

⑥ 暗灰褐色砂質土　指頭大の礫を若干含む土質

4号土坑

0　50cm



① 暗茶褐色土　耕作土

② 灰茶褐色土　指頭大の礫（川原石）を多く含みしまりの弱い土質

③ 茶褐色土　②層よりしまりがあり礫も挙大のものを多く含む

④ 暗青灰色土　しまりの弱い砂質土

⑤a 暗茶褐色土　礫を多く含み土のきめが細かくしまりの弱い土質

⑤b 暗茶褐色土　⑤a層より土の粒子があらく礫も大きい

⑥ 暗青灰色土　粘質土でややしまりのある土質

⑦ 暗灰褐色土　指頭大の礫を多く含みしまりがありかたい土質
遺物包含層である

⑧ 灰褐色土　砂質土でしまりのある土質

溝跡

0　1 m

第7図　三嶋遺跡遺構セクション図

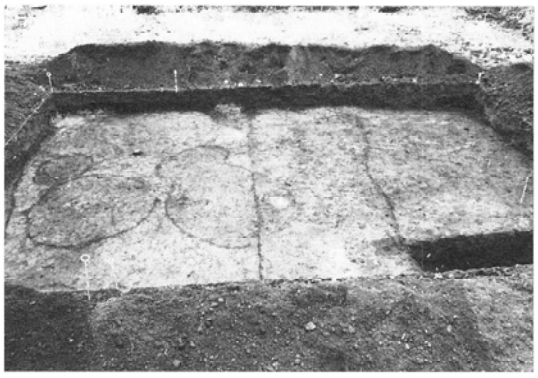
遺構について

土坑は３基検出された。２・３号は暗灰褐色土下位で確認され、連なった状況を呈する。新旧の切り合い関係は不明であるが両者とも砂質層が土坑低面となる。覆土はかたくしまった土質で土器片数点が出土した。

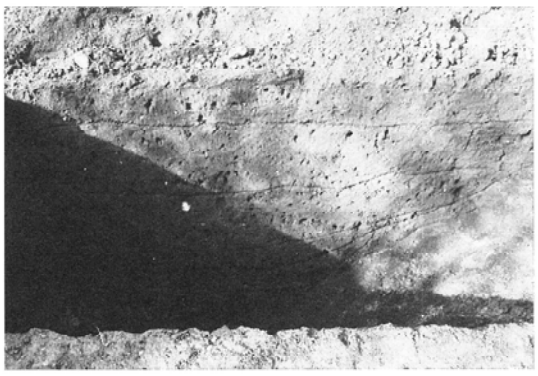
４号土坑は長径175㎝短径150㎝を測り遺構確認面から25㎝の深さで砂質土の低面に達する。暗灰褐色土下位で確認され、覆土上位はしまりがありかたい土質であるが、底に達すにしたがい礫を多く含みしまりも弱くなる。低面はほぼ平坦であるが東が深く西が浅い形状になる。遺物は遺構東北部の覆土上面において結束をもつ羽状縄文土器片がややまとまった状態で出土したほか、土坑中央南寄りの低面から２個体分の小型土器が出土した。土坑低面に潰れた状態で２個ならんで口縁部を東、底部を西にした状態で検出された。他に口縁に刻目をもち結束をもたない羽状縄文土器、結束を有する羽状縄文土器が数片出土している。土器の出土状況から縄文前期初頭から前半の土坑墓と推測される。

溝跡は調査区南側で検出された。茶褐色土で小礫を多く含みしまりの弱い土質を確認したため、調査区西壁に沿って幅１ｍにわたり掘り下げを行なった。遺構下位では土層の堆積がレンズ状を呈し礫を多く含み、褐色の地山層を掘り込んでいる。深掘りを行った範囲の最深部を溝の底と仮定すれば本遺構の幅を３～４ｍと推定が可能である。遺物は近世の陶器片が若干出土したほか③層から寛永通宝１点が出土した。

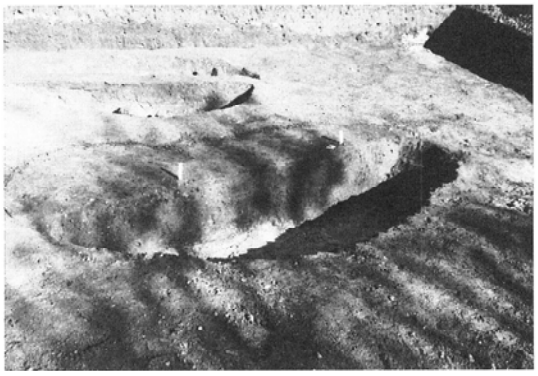
本遺構は標高約200ｍの河岸段丘上の微高地に位置し、付近には中世の館跡や寺跡の存在が伝えられており、溝跡は城館遺跡の堀跡になる可能性がある。



遺構検出状況



堀跡土層断面



２・３号　土　　坑

４号　土　　坑

図版３　三嶋遺跡遺構

遺物について

(1) 土　器

土器は２・３号土坑、４号土坑と包含層からの出土であり調整箱にして約１箱あり、出土した土器の胎土にはすべて繊維が含まれている。

２・３号土坑（第８図３・４、図版５）

３は結束をもたない羽状縄文が施される土器で、条の幅は６～10㎜と狭く撚の異なった原体を用いている。４はループ文が施された体部破片である。ＲＬのループ文が重層して施文され器壁８㎜を測る。３は縄文前期初頭、４は縄文前期初頭から前半にかけての土器である。

４号土坑（第８図１・２、５～11、図版５）

１は胴中位でわずかな膨らみを見せるが低部から口縁にかけて緩やかな立ち上がりをもつ器形で横断面形は楕円形を呈する土器である。口端には縦位に刻目が施され、口縁は平縁を呈し、撚糸の圧痕で文様帯を形成し、三角形と逆算角形を形どった撚糸圧痕文が交互に加えられ、その中を細い棒状工具による刺突文が充填される。体部の羽状縄文は幅８㎜前後と条の長さが短く、撚の異なった結束のない羽状縄文が規則的に施される。低部付近では羽状縄文の規則性は崩れるが、かわって爪形文が器形を一周する。爪形文も矢羽状を呈するように向きを変えて施文される。低部にも外周に沿って爪形文を施し、さらにその内側も爪形を充填させる。２は胴上半から口縁部を欠損した土器である。体部には撚の異なった結束のない羽状縄文が規則的に横位に施文されるが、低部付近の羽状縄文は縦位に施される。低部は先の細い棒状工具による刺突文が施される。５・６は口端において刻目が縦位に施され、撚りの異なった結束のない羽状縄文が施される。１・２・５・６は縄文前期初頭の土器である。７～11は体部破片で、結束のある撚の異なった羽状縄文が施される。縄文前期初頭から前半にかけての土器である。

遺物包含層（第８・９図、図版６）

第１群土器（第８図12～17）

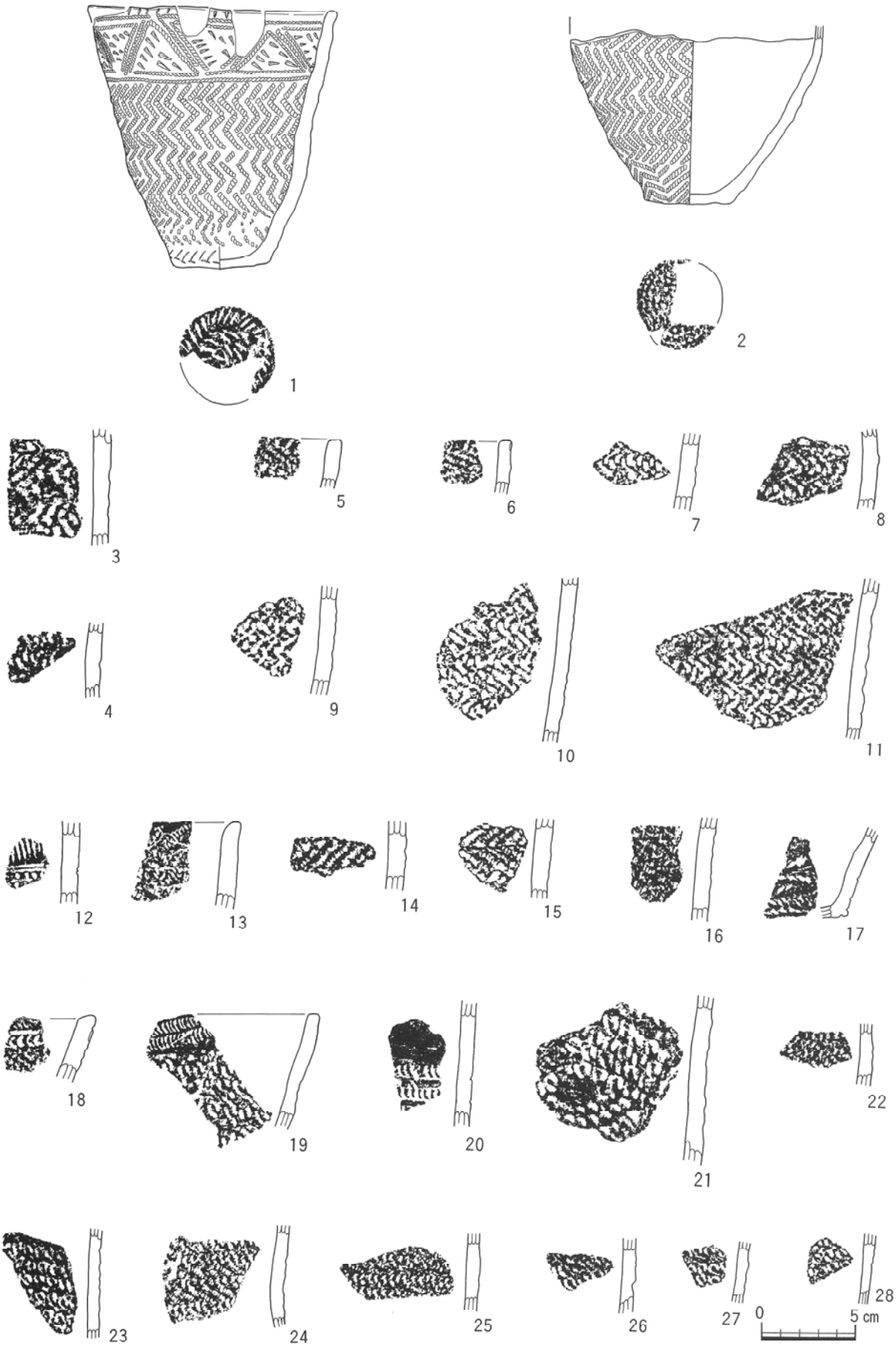
12は口縁部付近の土器片で、撚の異なった２条の撚糸圧痕で区画され櫛歯状工具による沈線が施される。13～16は結束のない羽状縄文をもつ土器片で、撚の異なった原体が用いられている。17は土器低部にかけての破片である。体部文様の内容は不明であるが縄文原体の節が確認され、低部にかけて爪形文が重層して施される。12～17の土器は縄文前期初頭の土器である。

第２群土器（第８図18～第９図31、図版６）

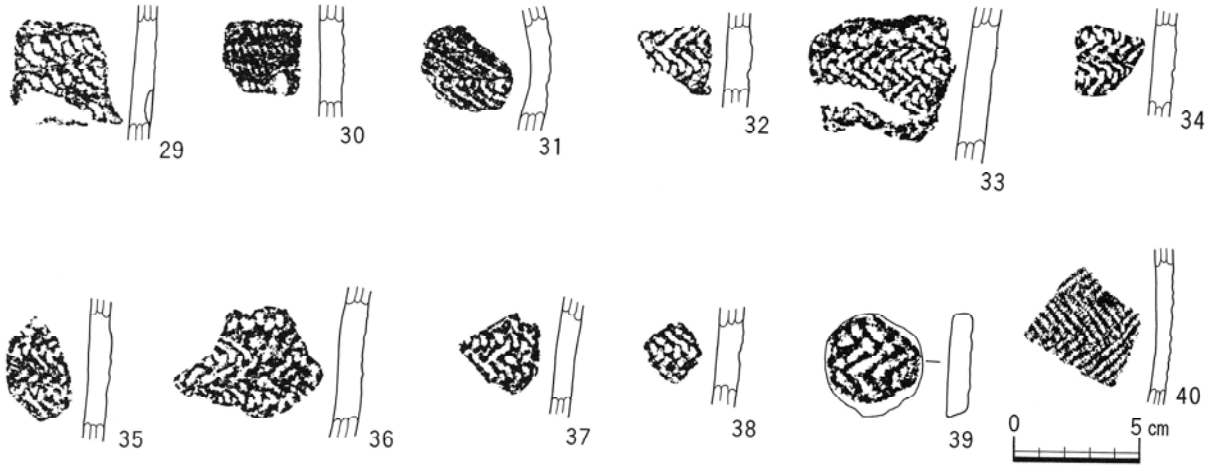
半截竹管の刺突やループ文が施される土器である。18～20は口縁部に半截竹管の刺突が見られ斜縄文やループ文が施される。21は口縁部破片でループ文が重層され、菱形の無文帯が形成される。22～31は体部破片で、縄文原体の節の大きさや条の長さはまちまちであるが、すべてＲＬのループ文が施されている。縄文前期前半の土器である。

第３群土器（第９図32～40、図版６）

結束をもつ羽状縄文土器である。32～39は条の幅が狭く結束部の文様が強調された土器で、節の異なる羽状縄文が施され、４号土坑出土土器と同様の文様である。40は器壁が薄く縄文原体の節も小さく施文も浅い異質な土器である。縄文前期初頭から前半の土器である。



第８図　三嶋遺跡土器実測図・拓影図



第9図　三嶋遺跡土器拓影図

以上が三嶋遺跡から出土した土器の概要で、縄文前期初頭の土器は花積下層式に、縄文前期前半の土器は大木１式にそれぞれ比定され、縄文前期初頭から前半の土器は花積下層式から大木１式の時期に含まれる土器である。

（2）石器他（第10図１～17、図版７）

石鏃　１は器中央部に向けて剥離が加えられるが縁片部でとどまっているため、素材とした剥片の背面と腹面が器中央部に残っている。２は薄手の剥片を素材としているため加工は縁片部にとどまる。素材となった剥片の打瘤痕も明瞭に観察される。

石錐　３は剥片の一角に剥離を加え先端を鋭利に加工した石器である。左辺に刃部の折れた痕跡が残っていることから、本石器は再生された可能性がある。

削器　４は小型の剥片の縁片に両面から細かい剥離を施し、一端を尖らせた薄手の石器である。５は厚手の剥片の縁片に加工を加えて石器で、先端が尖っている。

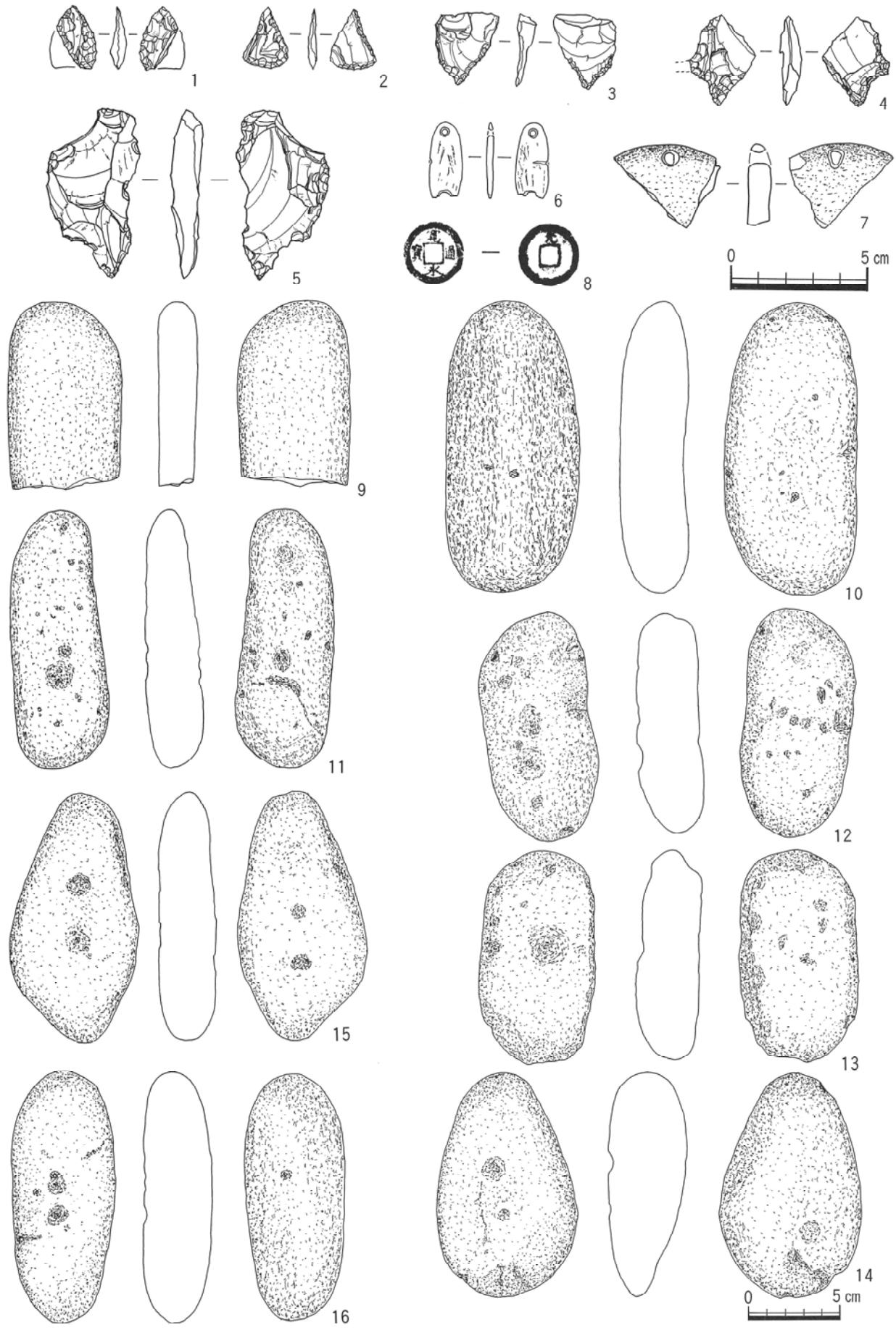
有孔石製品　６は楕円形の一端に抉りを加え基部を作出し、他端には孔を穿った垂飾品である。長さ2.79㎜幅1.17㎜厚さ3.0㎜と非常に薄手の作りである。７は偏平な礫の縁辺部に孔を穿った石製品である。偏平面の一方には磨いて平滑面を作り出した痕跡が認められる。

古銭　８は溝跡の覆土上位から出土したものである。表には寛永通宝の銘が、裏面には元の銘が刻まれている。元の文字から18世紀中頃に鋳造の年代を求めることができる。

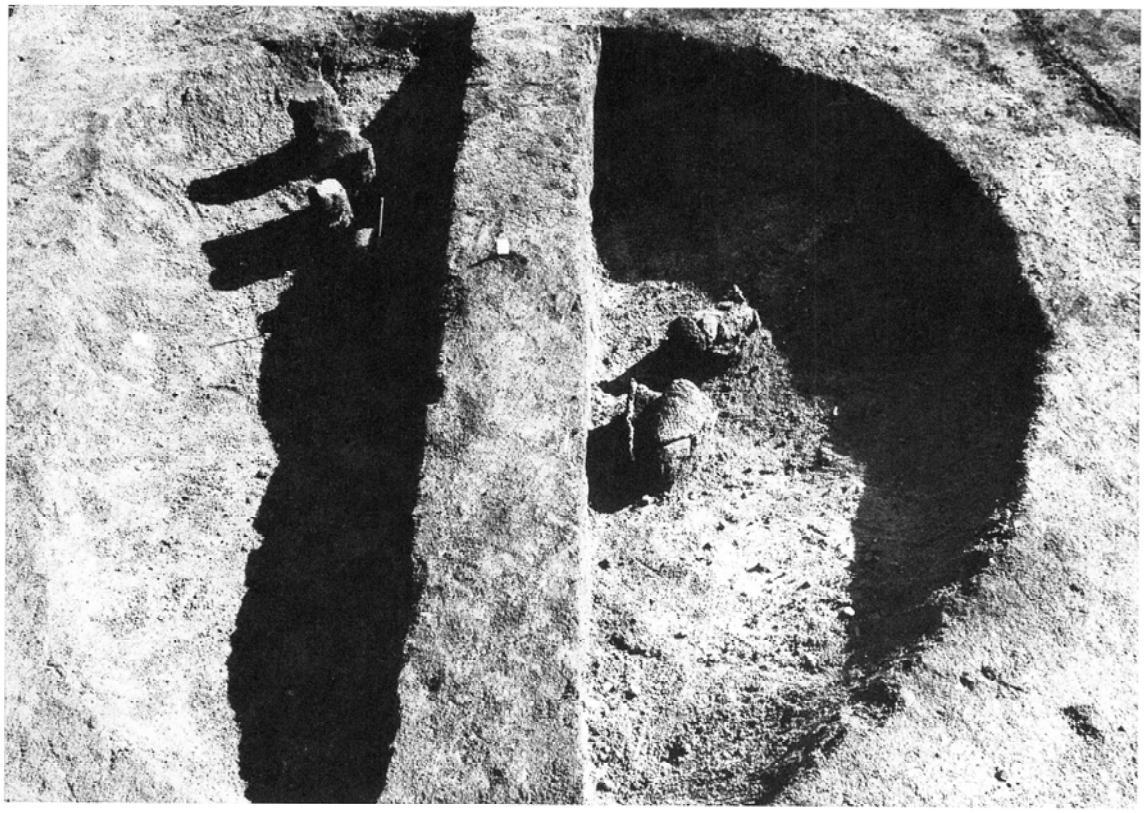
磨石　９は偏平な礫を用い、両面に擦痕が認められる。10は偏平で断面が三角形を呈する礫を用いている。擦痕は３面で観察されるが礫の稜線部で顕著に認められる。

凹石　14を除くといずれも偏平な礫を用いている。12～14は窪んだ箇所が明瞭に認められるが他は窪みも浅く範囲も小さい。偏平面は窪みの有無にかかわらず擦痕が観察されたため、磨石からの転用石器と推測される。

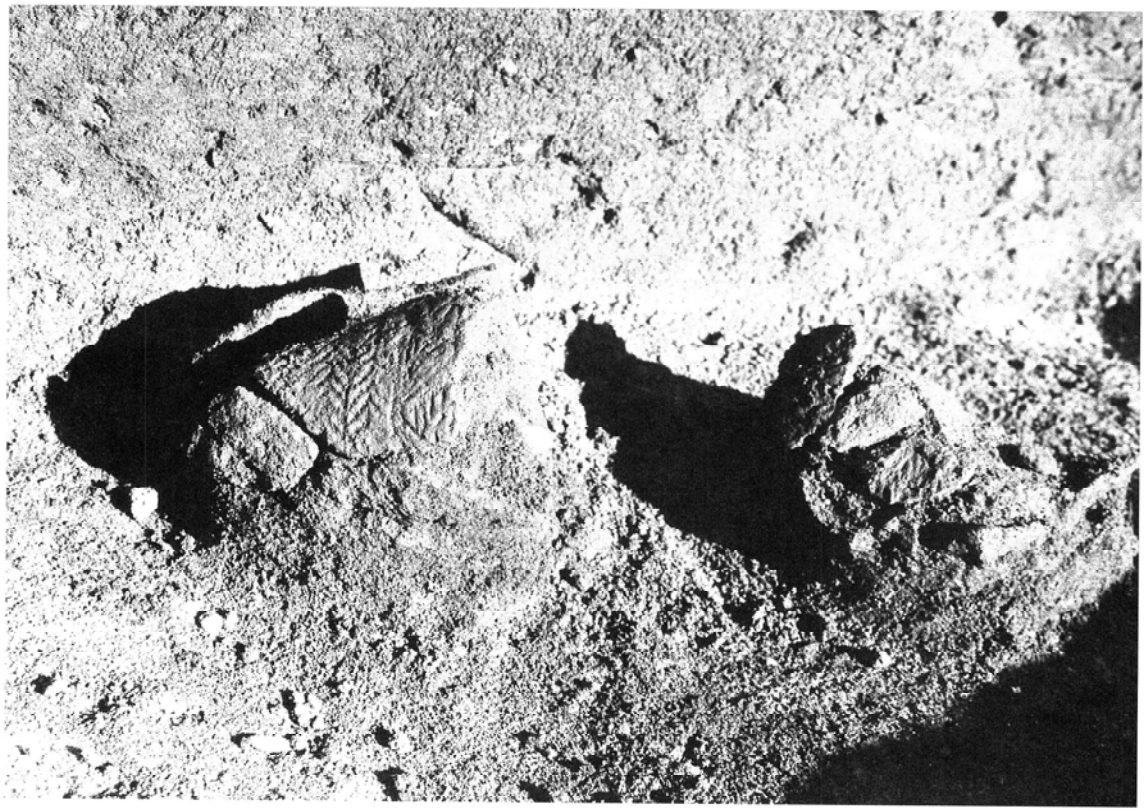
３・11は２・３号土坑出土、８は溝跡出土、他は包含層出土から出土している。



第10図　三嶋遺跡石器実測図他



4 号 土 坑　遺 物 出 土 状 況

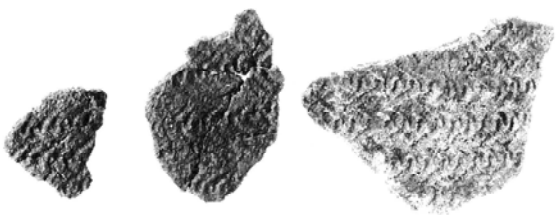


4 号 土 坑　一 括 土 器 出 土 状 況

図版 4　三 嶋 遺 跡 4 号 土 坑

4 号 土 坑
出 土 土 器
（ＲＰ1）

同　　上
（ＲＰ2）

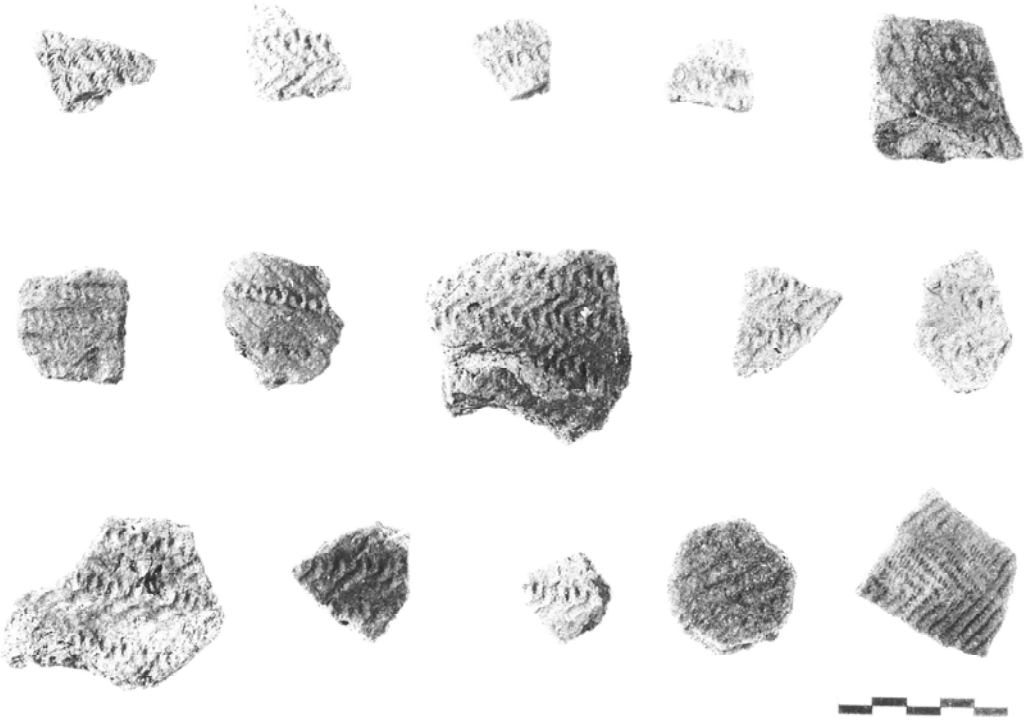


左：2・3号土坑
出土土器

右：4号土坑
出土土器

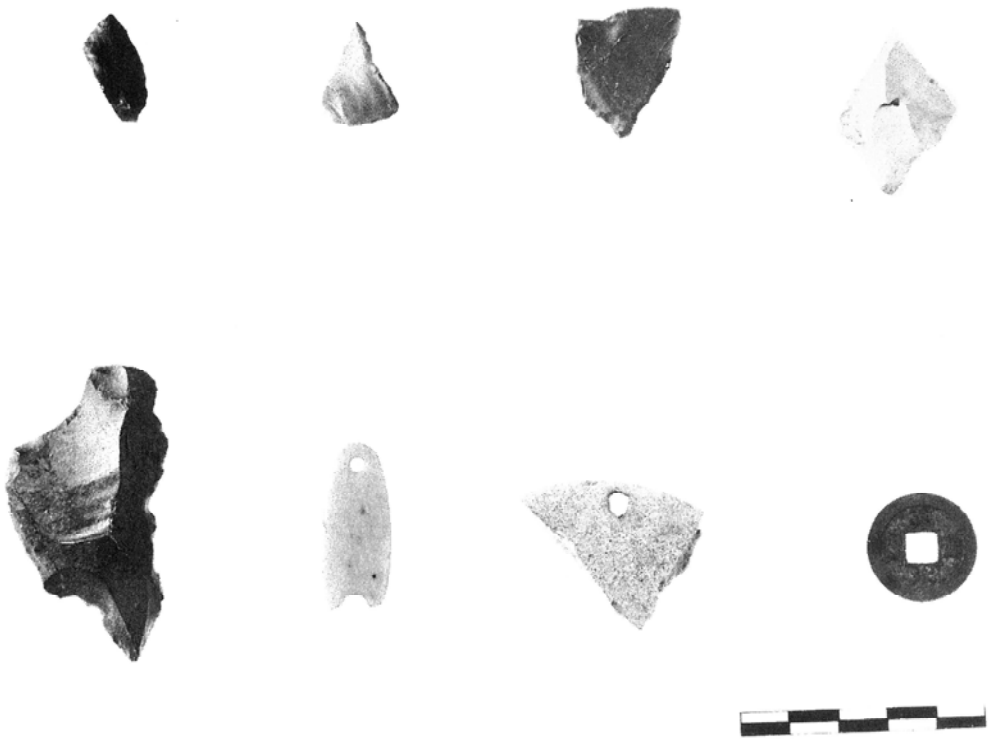
図版5　三嶋遺跡遺構出土土器

包含層出土土器

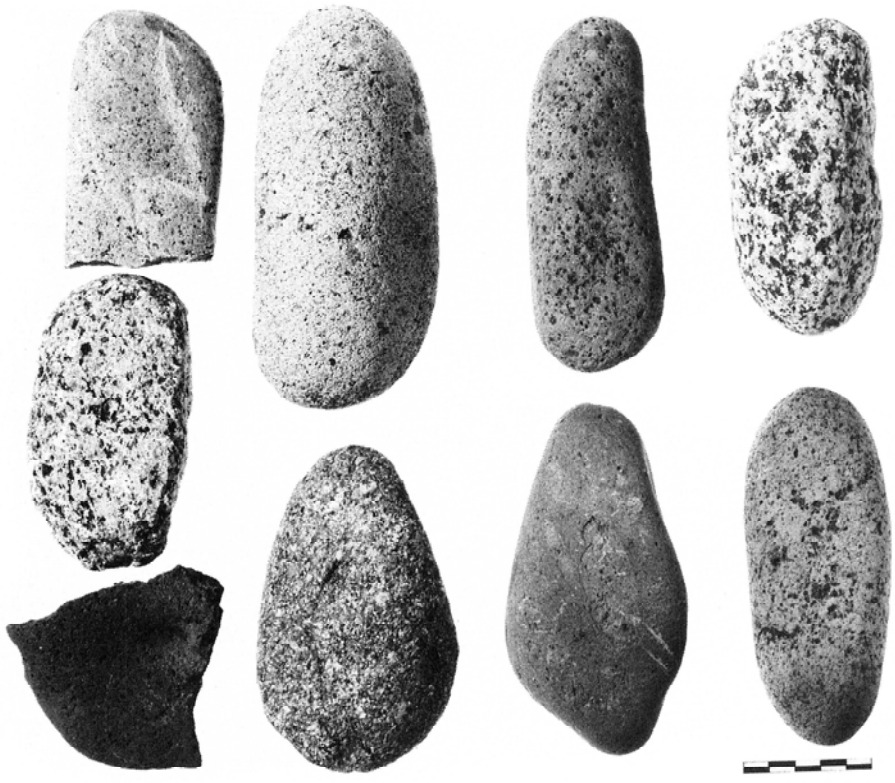


包含層出土土器

図版6　三嶋遺跡包含層出土土器



打製石器・有孔石製品・古銭



磨石・凹石

図版7　三嶋遺跡出土石器他

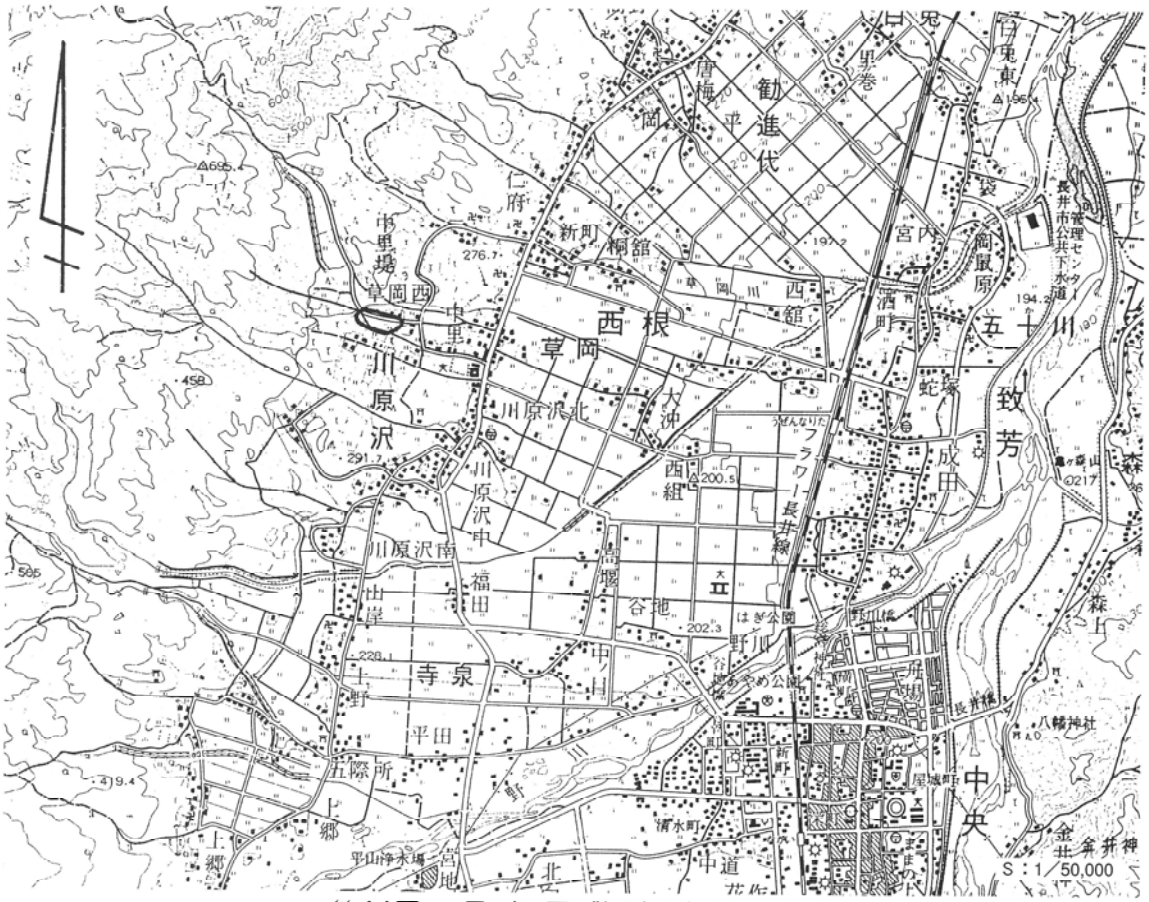
Ⅲ　開発事業に係る発掘調査、遺跡確認調査

3．長者屋敷遺跡

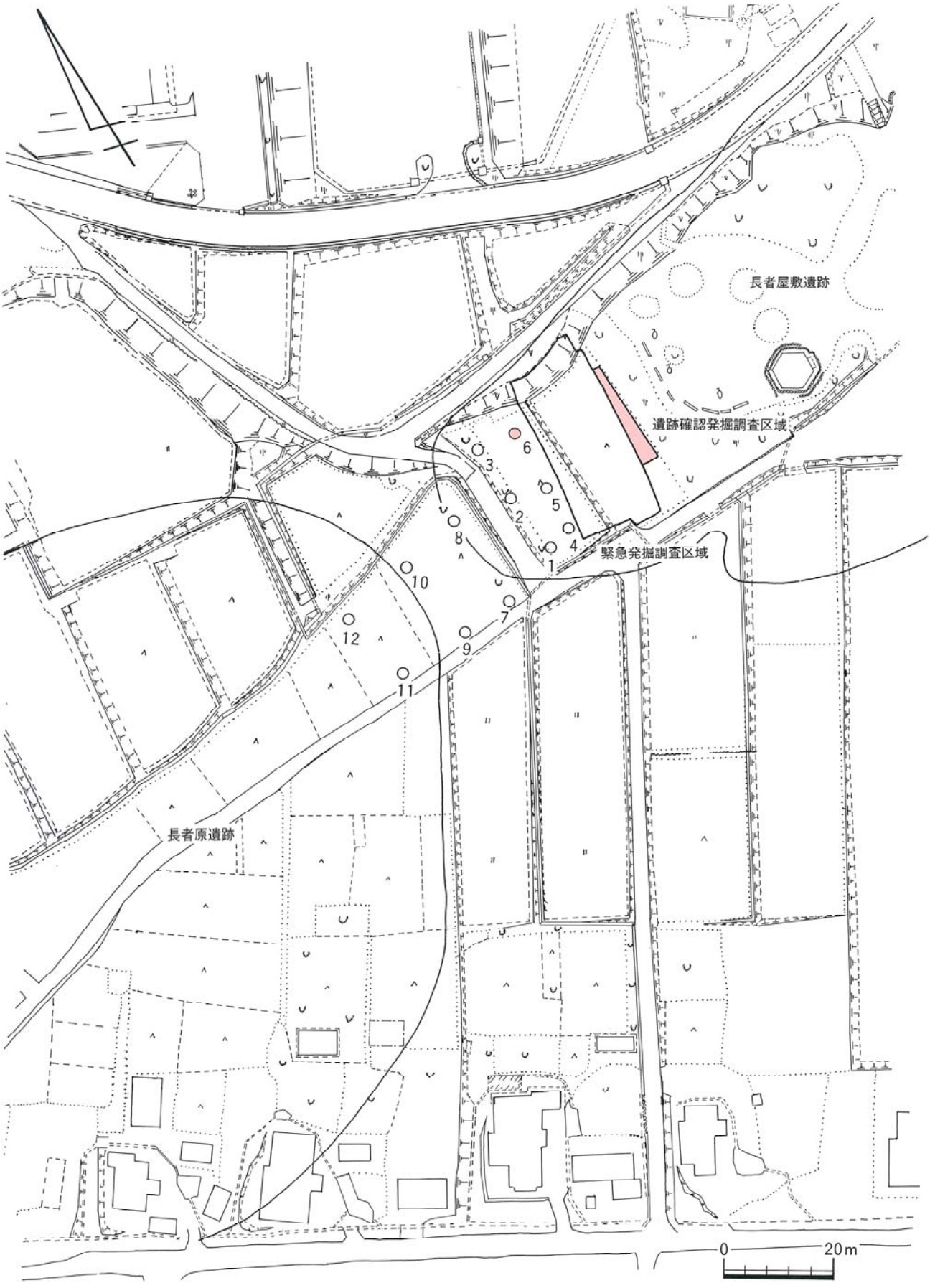
調査方法　本遺跡の西端部が市道改良工事の範囲に含まれるため平成10年度に緊急発掘調査を実施したところ縄文中期後葉の集落の一郭に半截木柱遺構４基が検出されたため、学術的にも貴重な発見であることから開発区域に含まれる遺跡範囲は保存されることとなった。木柱遺構はさらに緊急調査区の東側に続くことが予想されたため、緊急発掘調査区域と遺跡公園の間に位置する東西1.3～４ｍ南北20ｍの範囲に４×４ｍのグリットを設定し、手掘りで地山層まで掘り下げ半截木柱遺構と関連する遺構・遺物の検出にあたり、記録保存の後、埋め戻しを行い保存にあたった。また、新たな市道の迂回ルートと予想される遺跡の西側区域に１×１ｍのテストピットを任意に12箇所設定し地山層まで掘り下げ遺構・遺物の検出にあたった。

調査結果　遺跡確認調査では竪穴住居址１棟、炉跡１基、埋設土器１基、土坑１基、集石６基を検出したが木柱遺構は検出されなかった（詳細は後述）。テストピットにおいてＴＰ１・２では耕作土直下で地山層が検出されたもののＴＰ３～６では遺物包含層が安定した状態で残っており遺物も出土し、なかでもＴＰ６では炭化物を多く含む遺構覆土を確認した。ＴＰ７～12では各テストピットとも長者屋敷遺跡の遺物包含層と同様の土質を確認したが、遺構・遺物は検出されなかった。

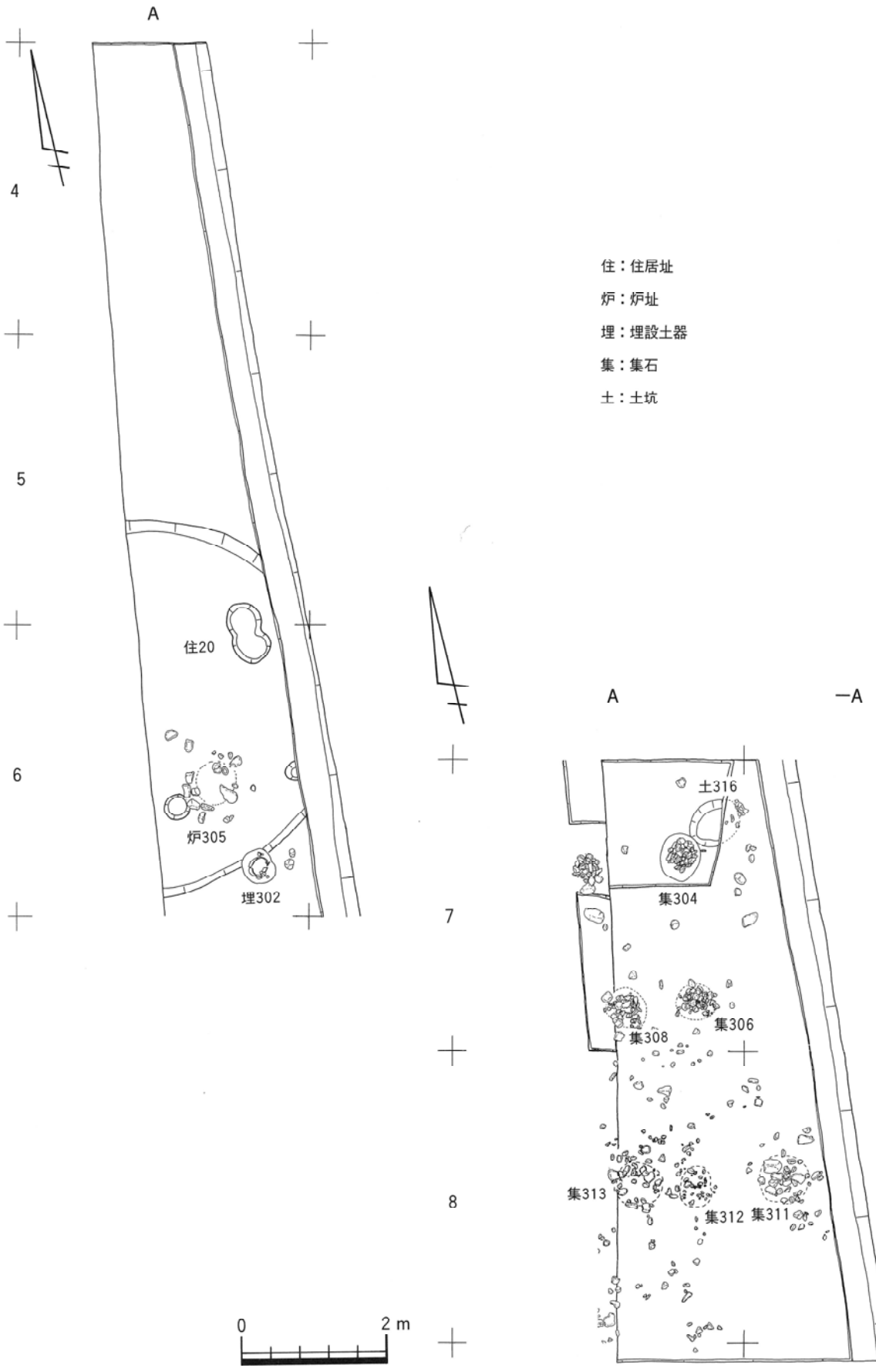
調査所見…遺跡確認調査の区域は緊急発掘調査の状況も含めると集石や土坑が検出され、竪穴住居跡群の内側に形成された広場の一郭に含まれる。テストピット範囲ではＴＰ１～６にかけては遺物包含層も残っており、縄文中期後葉の範囲に含まれ、開発にあたっては充分な協議が必要である。また、ＴＰ７～12にかけて開発行為が及ぶ場合は慎重工事の扱いとした。



第11図　長者屋敷遺跡位置図



第12図　長者屋敷遺跡概要図



第13図　長者屋敷遺跡遺構配置図

遺構について

発見された遺構は竪穴住居址１棟、炉址１基、埋設土器１基、土坑１基、集石６基である。発掘調査は遺跡確認と将来の利活用の目的から遺構の検出にとどめ保存につとめた。

（1）20号住居址（第14図、図版８）

本住居址は西側半分が緊急発掘調査で検出されたもので、このたびは残りの東半分が調査の対象となった。調査区域は基盤整備事業を受けていることもありＡ－５・６区の耕作土直下において炭化物を多量に含む黒褐色覆土を確認した。平面形状はほぼ円形を呈し床の掘り込みは褐色地山層には達しておらず直前の暗茶褐色土を床面としている。炉は住居址中央部の床面と断面において赤褐色で炭化物を多量に含む焼土が確認されたことから、地焼炉と考えられる。床面は平坦で壁はゆるやかな立ち上がりをみせる。柱穴は掘り込みも15～20㎝と浅く規模も小さい。遺物は縄文中期後葉の土器も見られるが、晩期後葉の土器が主体を占める。本住居址の特徴として覆土上位から中位にかけて礫が多く含まれることである。緊急調査で本住居址西側半分の掘り下げを行ったときも長さ50～60㎝の柱状の礫や人頭大から拳大の礫が多く出土している。状況から判断すると住居中央にかけて礫が密集して検出され、壁に近づくにしたがいその数は減少傾向にある。南半において埋設土器と炉址が出土しているが耕作土直下での検出であり、本遺構より新しい時期の所産と考えられる。

（2）305号炉址（第14図、図版８）

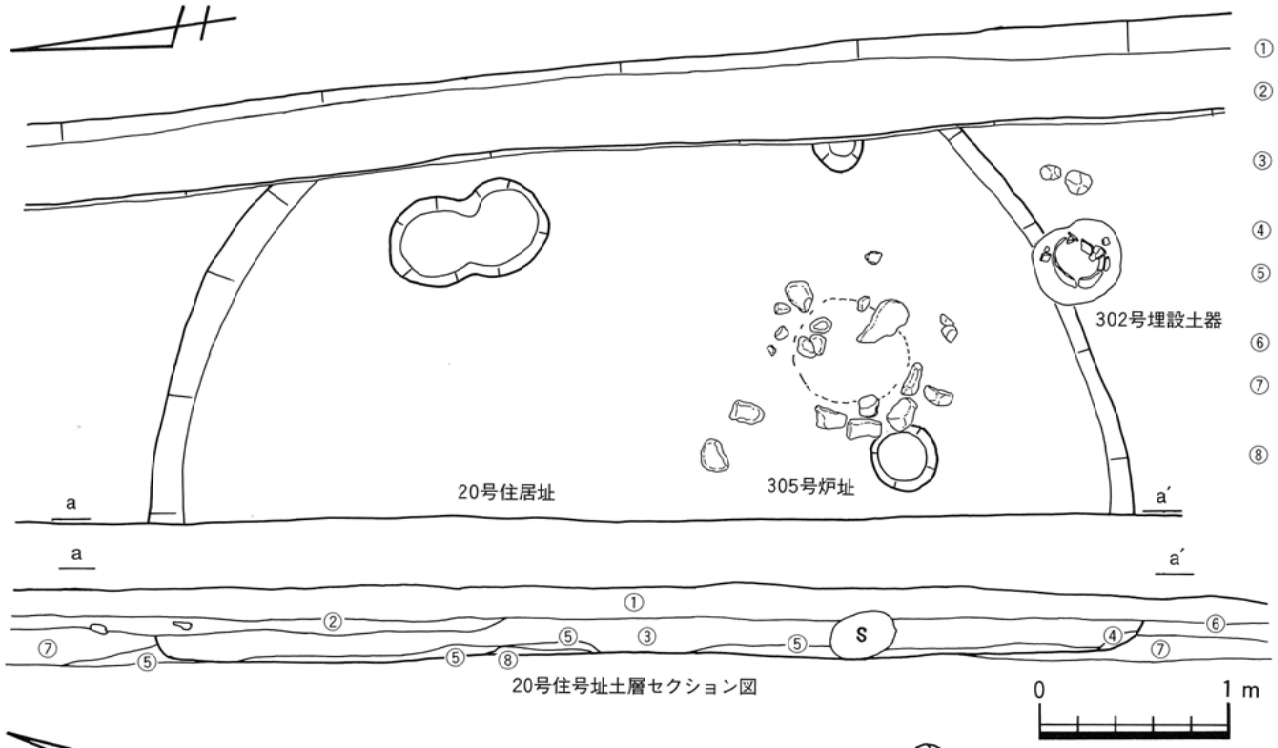
Ａ－６区で耕作土直下において検出された。基盤整備のため一部撹乱を受けているものの、人頭大から拳大の礫を用い環状に配置した形跡が認められる。遺構中央部には赤褐色で炭化物を多量に含む焼土が直径60㎝の範囲に見られる。確認面では扁平を呈した礫も掘り下げがすすむにつれ地中深く埋められているのが観察され、そのほとんどが逆三角形や長方形の断面をもつ礫が多用されていた。昭和55年（1980）の調査では縄文晩期の住居址から同様の炉址が検出され周囲には小ピットを伴う周溝が巡っていた。本遺構も晩期の住居址に伴う炉址の可能性がある。

（3）302号埋設土器（第14図、図版８）

20号住居址の南東壁際に位置する。305号炉址と同様に耕作土直下で検出され、口縁部を下に低部を上に配置された埋設土器である。基盤整備や耕作で撹乱を受けていて胴部から低部は欠損し出土したのは口縁部付近のみである。20号住居址の壁を切って土坑を掘り込み土器を埋設している。標高も305号炉址と同様のレベルにあり、土器の文様も綾繰文が見られることから縄文晩期の住居址に関わる埋設土器と考えられる。

（4）集石（第15・16図、図版８・９）

304号集石…長軸50㎝短軸40㎝を測る集石で、耕作土直下の茶褐色土上位で確認された。楕円形のプランをもつ土坑を伴い拳大の礫が密集した状態で検出され、礫は深いところで土坑覆土中位まで達し立体的に埋められている状況が観察される。稜のある花崗岩の角礫を多く用いているが磨石１点、凹石１点も混じって検出され、土坑の底から縄文中期後葉の土器片がまとまった状態で出土していることから、本遺構は墓跡と考えられる。



20号住号址土層セクション図

① 暗茶褐色土　耕作土
② 暗茶褐色土　砂粒・橙褐色・炭化粒子を多量に含みしまりありかたい土質
③ 黒褐色土　褐色風化小礫・炭化物を多量に含み粘性がありかたくしまった土質
④ 暗褐色土　暗褐色土に褐色土がブロック状に混じる
⑤ 暗褐色土　暗茶褐色土に褐色土（地山層）がブロック状に混じる
⑥ 茶褐色土　褐色粒子を若干含みしまり弱い土質
⑦ 暗茶褐色土　炭化粒子を若干含み粒子の細かい土質でしまりがありかたい土質
⑧ 赤褐色土　炭化物を多量に含みしまりある土質

第14図　長者屋敷遺跡　20号竪穴住居址、305号炉址、302号埋設土器

306号集石…長軸50㎝短軸35㎝を測る集石で、耕作土直下の茶褐色土上位で確認された。暗茶褐色土の円形プランが確認されたことから土坑を伴う集石と推測される。礫は拳大の花崗岩が主体をなし密集した状態で検出され、磨石１点が混在していた。

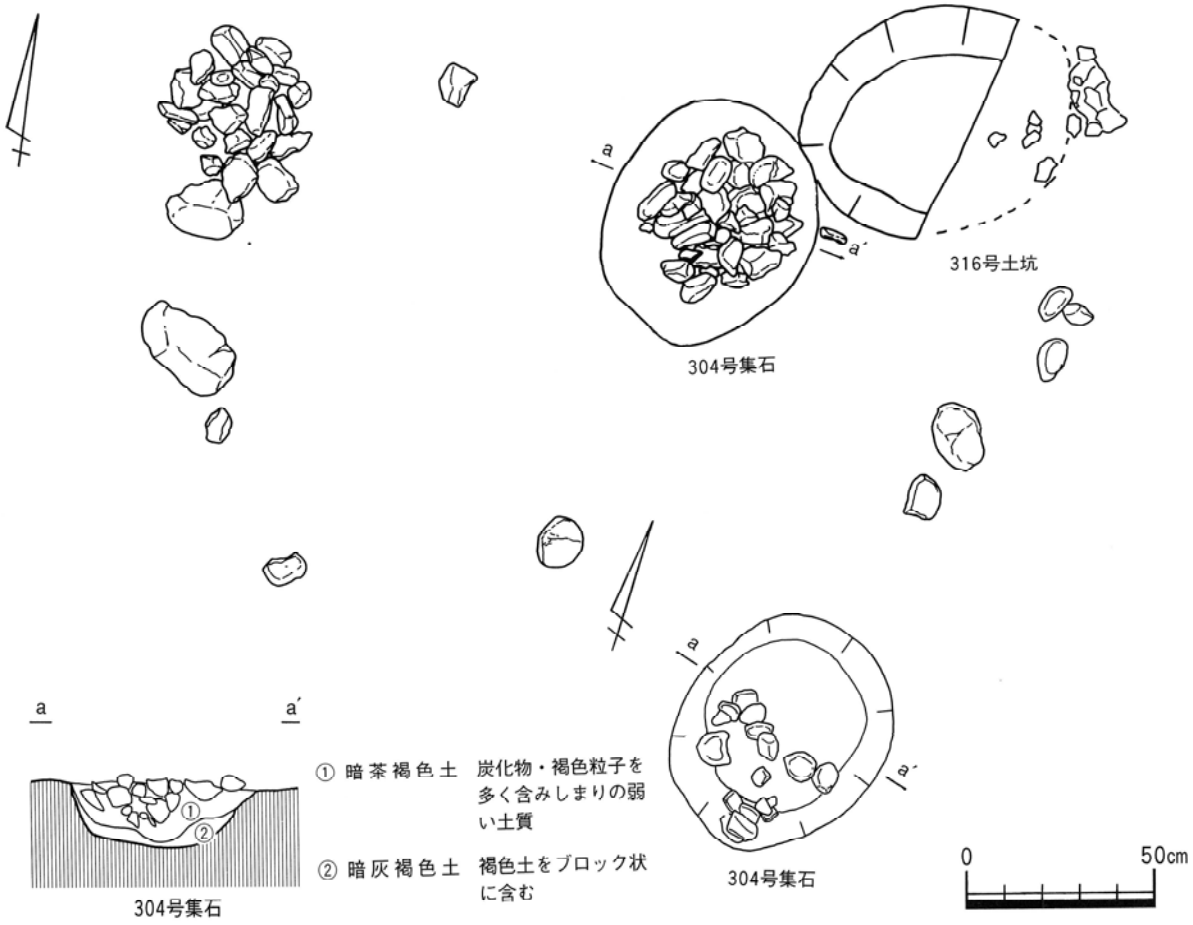
308号土坑…長軸55㎝短軸45㎝を測る集石で、耕作土直下の茶褐色土上位で確認された。四方にやや大型の礫を配し花崗岩の角礫を多く用いている。本遺構も暗茶褐色土の円形プランが確認されたことから土坑を伴う集石と推測される。凹石１点が混在する。

311号集石…耕作土直下の茶褐色土上位で確認された。礫の密度がやや疎となり大型礫も見られるが暗茶褐色土の円形プランが確認されたことから土坑を伴う集石と推測される。

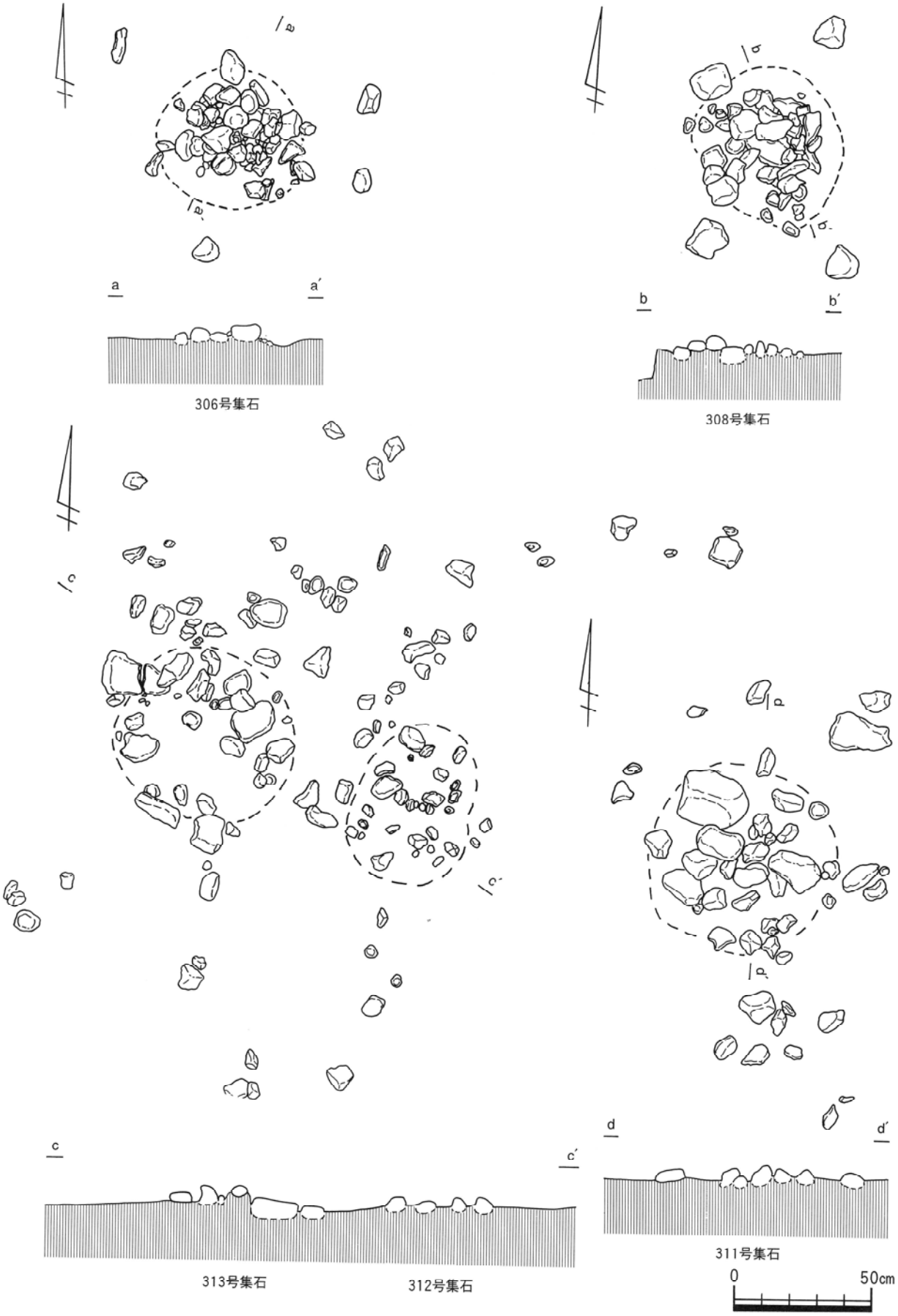
312号集石…これまでの集石とはやや異なり礫が環状に配置される。石質は花崗岩の角礫を多く用いているが礫の密度が薄くなり小型化する傾向にある。

313号集石…312号集石に隣接している。礫の密度が薄くなるが、花崗岩の角礫を環状に配置し直径60㎝を測るが、312号集石と同様にこれまでの集石とは異なり土坑のプランが明瞭に確認するのが困難である。

以上が遺構の概要であるが、昭和52～57年に行われた調査と昨年の緊急発掘調査における遺構配置を見ると、東西に長軸を有する楕円形の広場を中心に竪穴住居址が弧状にならぶ集落が想定される。さらに広場には土坑や集石がまとまった状況で検出され、その一郭に半截木柱遺構が正方形の四隅に４基配置される。半截木柱遺構が加わったことでこれまでの集落のありかたにまた新たな要素が出現したことになる。



第15図　長者屋敷遺跡 304号集石、316号土坑



第16図　長者屋敷遺跡 306、308、311～313号集石

遺物について

この度の調査で遺物は整理箱で約５箱出土した。時期は縄文中期後葉と縄文晩期後葉の遺物が出土しているが６～７割が晩期の資料である。

（1）土器（第17・18図、図版10～12）

20号住居址（第17図３～22、図版10）

３～７は隆線や沈線で区画文を描き出し、内部に縄文が施される縄文中期後葉の土器である。７は縄文施文後に沈線による区画文を施した磨消縄文である。

８～13は皿または浅鉢の口縁部にかけての土器で、８・９は口縁に沿って工字文が施される。９～13は口縁に数条の沈線が見られる。14～12は粗製土器の鉢や深鉢で、14は口縁に沈線が、15～20は体部に斜縄文や綾縄文が施される。21・22は櫛歯状工具による条痕をもつ土器である。８・９は大洞Ａ式土器で10～22はそれに伴う土器である。

304号集石（第17図23～33、図版11）

23～31は隆線と沈線で曲線文を描き出し、区画内に縄文が施される土器で同一個体と思われる。32・33地文の斜縄文を沈線で区画した磨消縄文の土器である。本遺構出土の土器は縄文中期後葉のものである。

302号埋設土器（第17図１、図版11）

胴部中位から低部を欠損するが口径28.5cmを測る。口縁部は無文帯となるが、綾繰文とＬＲの斜縄文が施文される。晩期後葉の粗製土器である。

遺物包含層（第17図２・18図34～73、図版11・12）

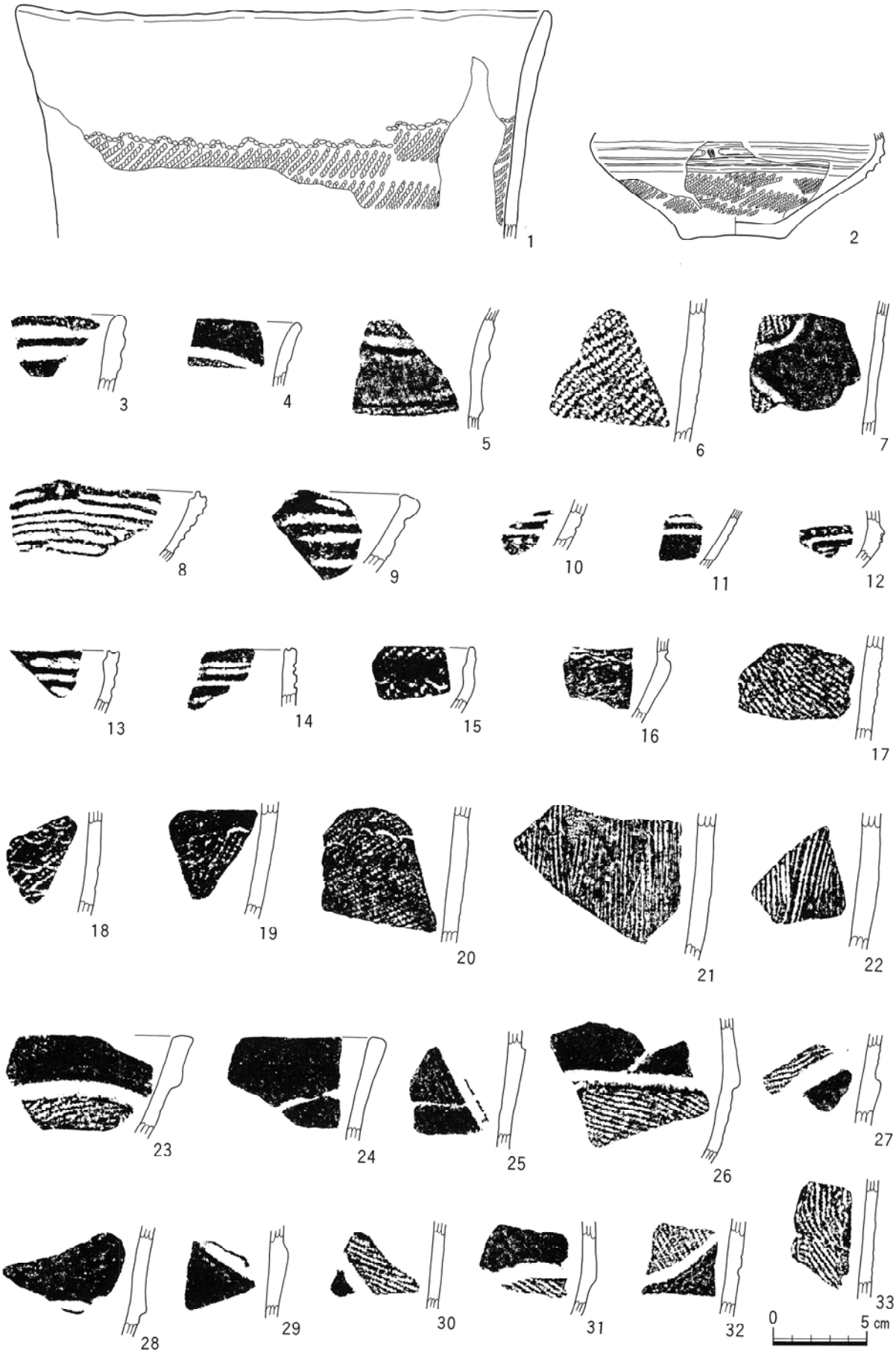
第１群土器…34は口縁が外反し地文の斜縄文を沈線で区画した磨消縄文の土器である。縄文中期後葉のものである。

第２群土器…35は区画文の隆帯に沿って沈線が施され、円形の刺突文が加えられる土器である。36は体部破片で、２条の平行線で曲線文が描出される土器である。本群は縄文後期に属する。

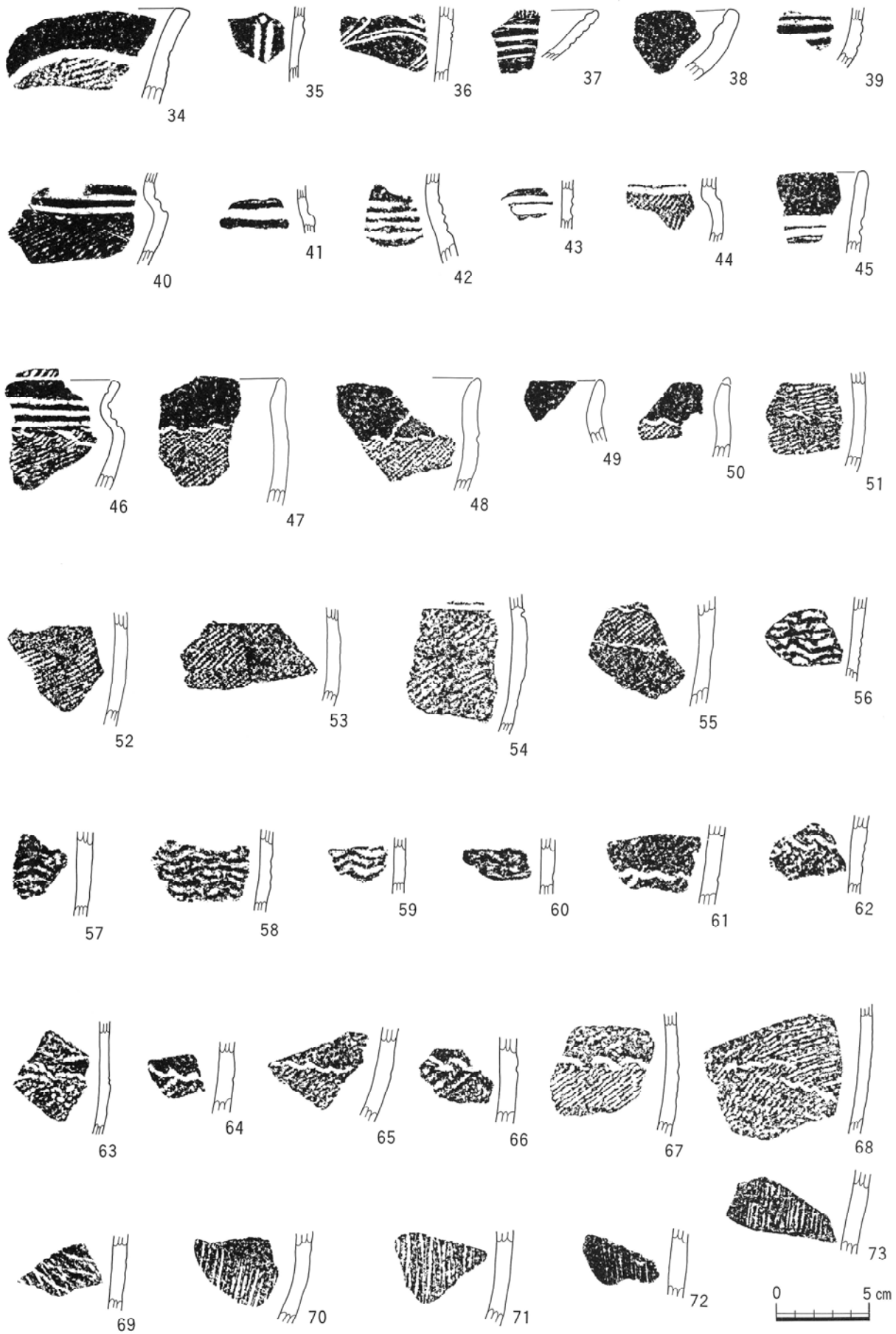
第３群土器…２・37～39は皿または浅鉢土器である。２は工字文が施され体部にはＬＲの斜縄文が見られる。37～39は口縁の外側や内側に沈線が施される。40～46は鉢や深鉢の口縁部破片で数条の沈線が加えられる。47～73は深鉢形の粗製土器で、綾繰文と斜縄文が組合わさった文様をもつもの、櫛歯状工具による条痕文をもつ土器である。56～60は押形文が施された粗製土器の体部破片である。本群は大洞Ａ式土器に伴う土器である。

（2）石器（図版13）

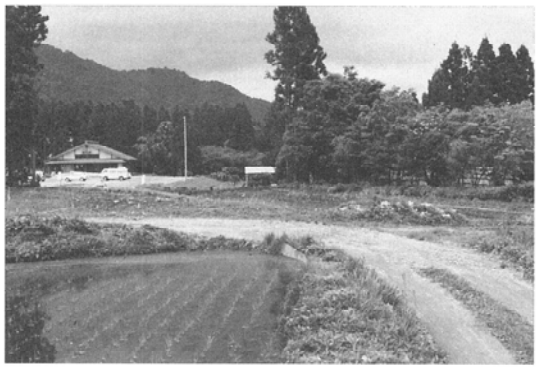
石鏃は３点出土し、２点が有茎である。１は頁石２・３は玉随質の石材を素材としている。４・６は頁岩の剝片を素材とした石錐で先端部を欠損している。５は薄手の石刃を用いた削器で端部に加工を施し刃部を形成する。７・８は篦状石器で器背面に大きな剝離痕が残っており横長剝片を素材としたことがうかがわる。９は磨製石斧で刃部を欠損する。10は磨石で楕円形礫の両面に擦痕が認められる。304号集石の礫に混在して出土した。11・12は凹石で、11は楕円形礫の両面に複数の窪みが見られる。314号集石の礫に混在し出土した。12は片面にのみ窪みを有する石器で304号集石の礫に混在して出土した。



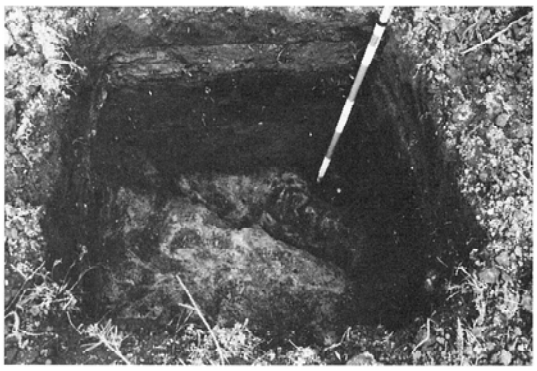
第17図 長者屋敷遺跡土器実測図・拓影図



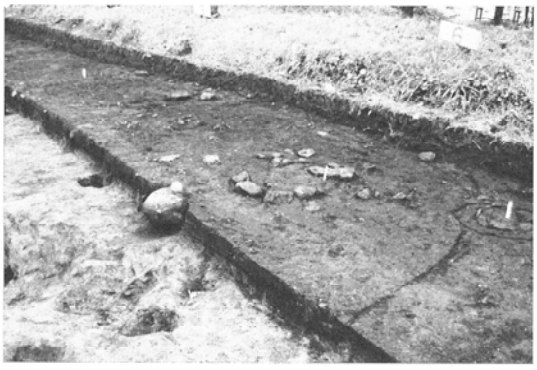
第18図　長者屋敷遺跡土器拓影図



遺　跡　近　景

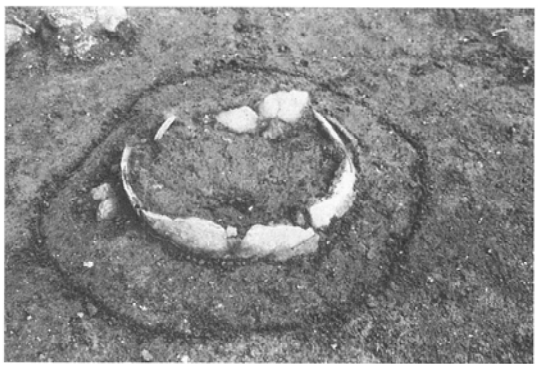


ＴＰ　6

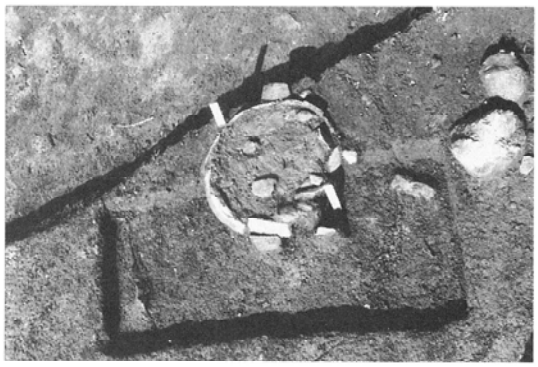


20号住居址検出状況

20号住居址完掘状況



302号埋設土器検出状況



302号埋設土器半截状況

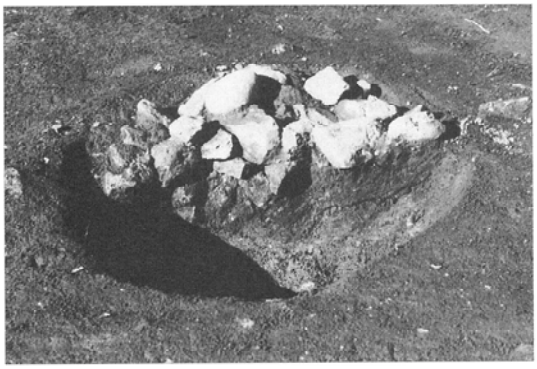
305号炉址検出状況

304号集石検出状況

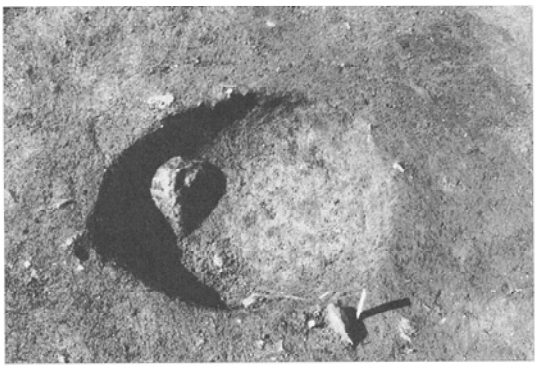
図版8　長者屋敷遺跡遺構検出状況

304号集石掘下げ状況

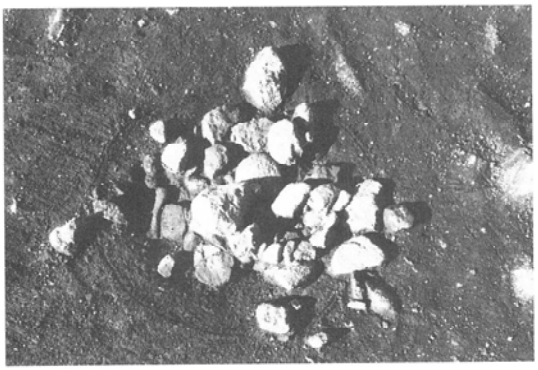
同　　左



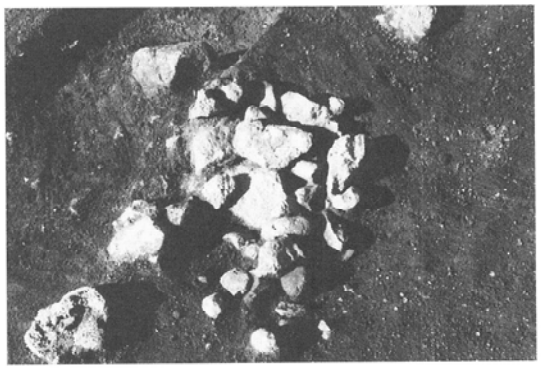
304号集石半截状況



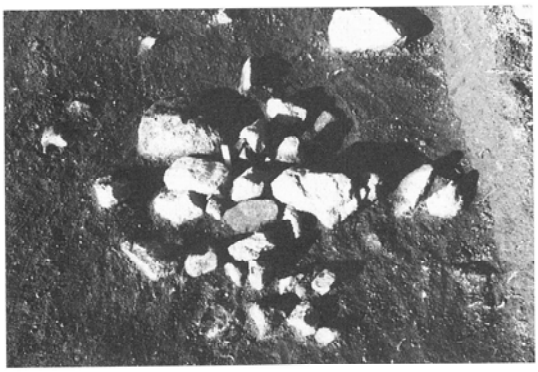
304号集石完掘状況



306号集石検出状況



308号集石検出状況

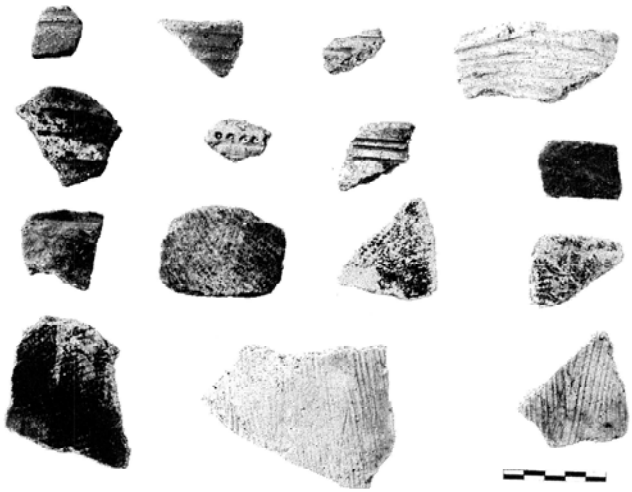


311号集石検出状況

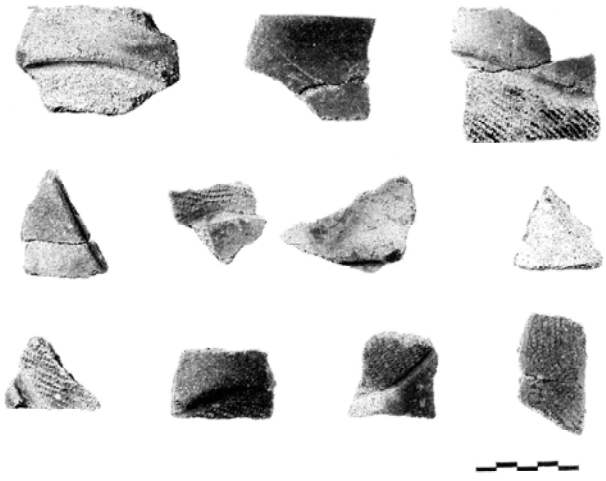
312・313号集石検出状況

図版9　長者屋敷遺跡集石検出状況

20号住居址
出土土器（縄文中期）



20号住居址
出土土器（縄文後～晩期）

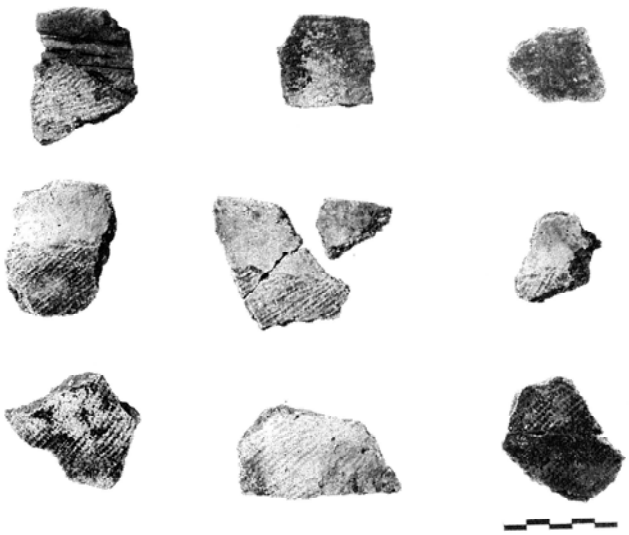


304号集石
出土土器（縄文中期）

図版10　長者屋敷遺跡遺構出土土器

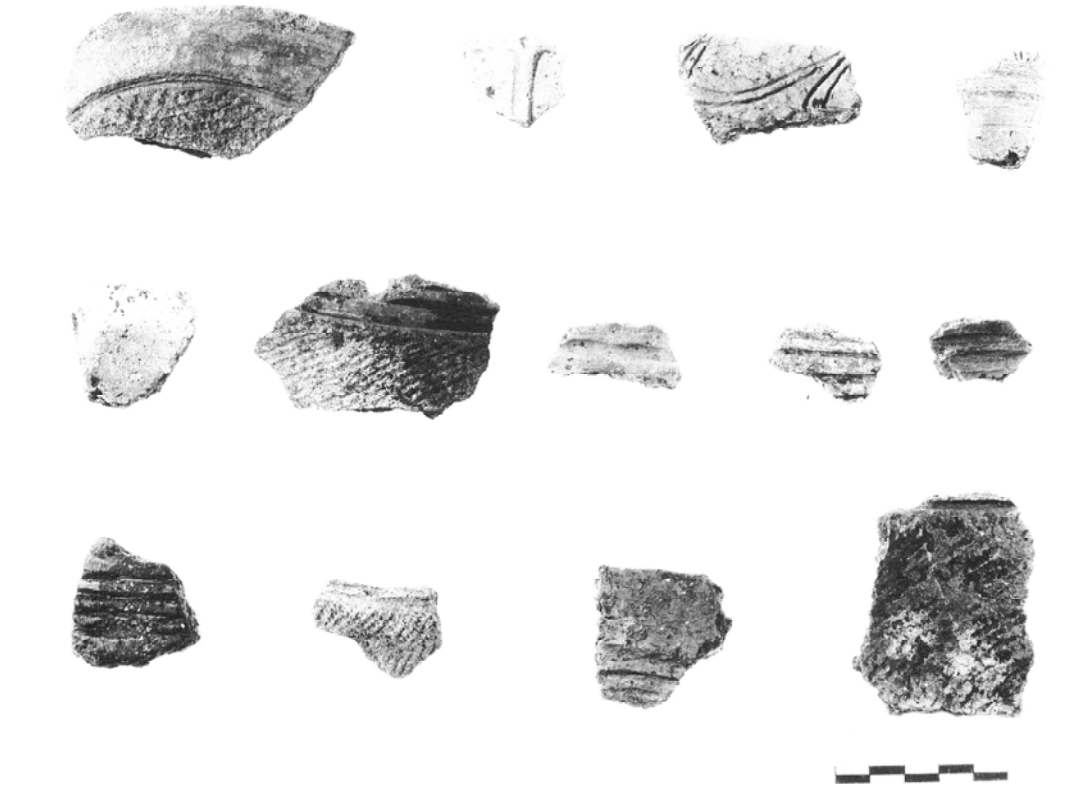
302号埋設土器
（縄文晩期）

包含層出土土器
（縄文晩期）

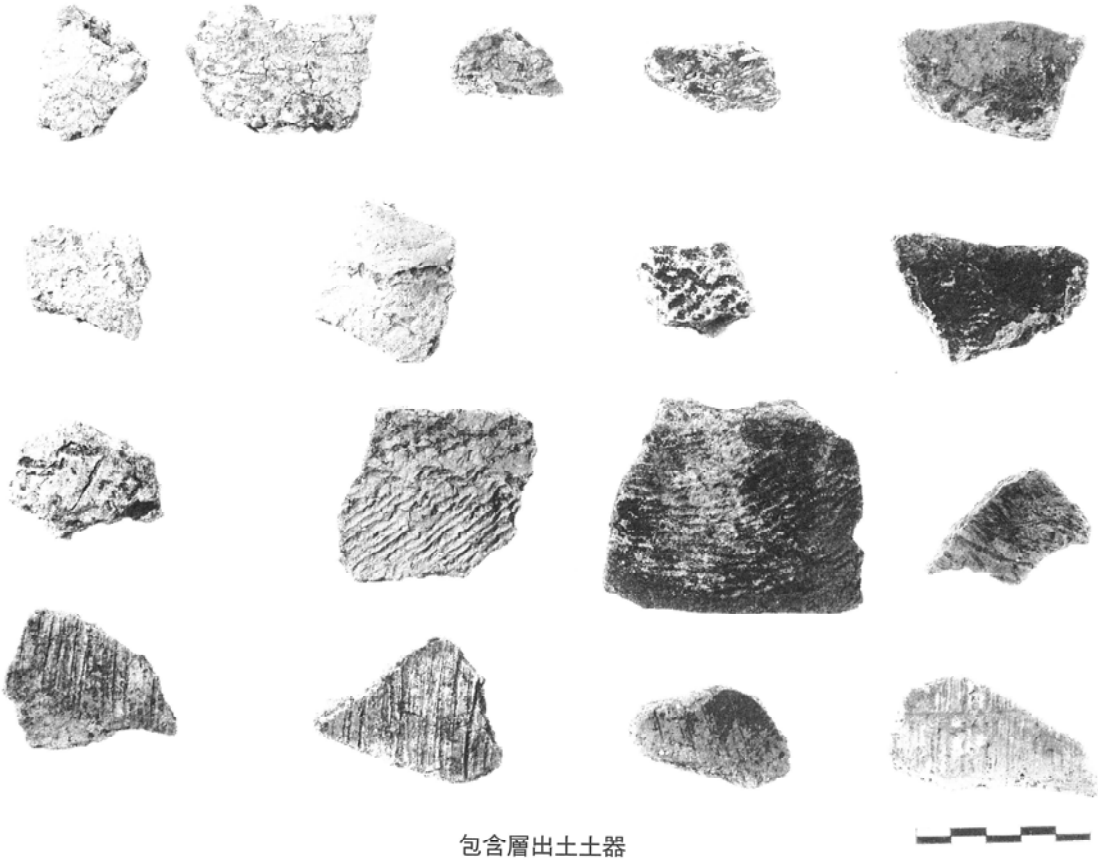


同　上

図版11　長者屋敷遺跡遺構出土、一括土器

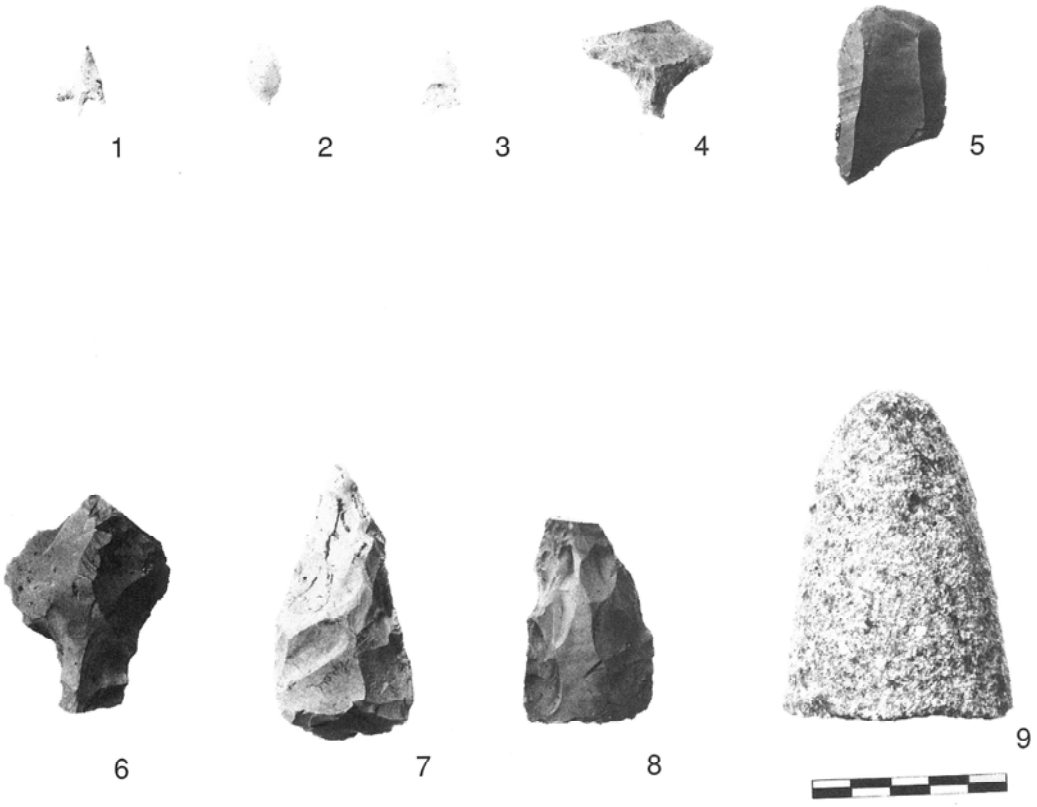


包含層出土土器



包含層出土土器

図版12　長者屋敷遺跡包含層出土遺物



石鏃・石錐・削器・篦状石器・磨製石斧

磨石・凹石

図版13　長者屋敷遺跡出土石器

報　告　書　抄　録

ふりがな	しないいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	市内遺跡発掘調査報告書
副書名	歌丸館跡の調査、三嶋遺跡の調査、長者屋敷遺跡の調査
巻次	
シリーズ名	山形県長井市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第16集
編著者名	岩崎義信
編集機関	長井市教育委員会
所在地	〒993－0001　山形県長井市ままの上5番1号　TEL.0238－84－2111
発行年月日	西暦1999年3月31日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
歌丸館跡	山形県長井市歌丸字本郷	6209	127	38度03分19秒	140度02分02秒	1998.12.16	15㎡	街なみ環境整備事業に伴う試掘調査
三嶋	山形県長井市成田字三嶋	6209	42	38度07分15秒	140度02分19秒	1998.12.01～1998.12.04	35㎡	下水道整備に伴う試掘調査
長者屋敷	山形県長井市草岡字長者屋敷	6209	81	38度08分08秒	140度00分10秒	1998.10.02～1998.11.02	55㎡	遺跡確認調査
長者屋敷	山形県長井市草岡字長者屋敷	6209	81	38度08分08秒	140度00分10秒	1998.11.04～1998.11.05	12㎡	市道改良に伴う試掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
歌丸	館跡	中世	堀跡		
三嶋	集落跡	縄文前期	土坑	縄文土器	前期前葉の完形一括土器出土
長者屋敷	集落跡	縄文中期、晩期	竪穴住居址、集石、土坑	縄文土器・石鏃石錐・磨石・凹石	

長井市埋蔵文化財調査報告書　第16集

市内遺跡発掘調査報告書（7）

平成11年３月９日　印刷
平成11年３月31日　発行

発行　長井市教育委員会
山形県長井市ままの上５番１号
TEL（0238）84－2111

印刷　(有)ミキプロセス
山形県長井市森426
TEL（0238）88－5685